

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議報告書

(平成25年度)

— 平成24年度年度計画自己点検評価の検証／平成25年度年度計画 —

平成25年12月

沼津工業高等専門学校
運営諮問会議

目 次

I. はじめに	1
II. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則	2
III. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	3
IV. 概要説明	
1. 沼津工業高等専門学校概要 (Power Point 資料)	5
V. 審議事項	
1. 平成 24 年度年度計画 自己点検評価の検証	
1) 平成 24 年度 年度計画 自己点検評価表	35
2) 平成 24 年度 年度計画 評価シート意見対応表	43
2. 平成 25 年度年度計画について	
1) 沼津工業高等専門学校 平成 25 年度 年度計画	55
2) 平成 25 年度 年度計画意見表	67
VI. 平成 25 年度 沼津工業高等専門学校 運営諮問会議議事録	77
(平成 25 年 7 月 26 日 (金) 本校 3 F 大会議室)	

I. はじめに

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校長 柳下福蔵

中学校を卒業した15歳の入学生に、実験実習・演習を重視して低学年から専門教科を楔型に組み込んで知識・技術を体験的に実質化する高専教育は、世界的にも類を見ないユニークな教育システムであり、本校がこれまでに輩出した8000余名の卒業生・専攻科修了生は産業界及び大学・大学院等において高く評価されています。

(独)国立高等専門学校機構は、平成20年12月に公表された中央教育審議会答申「高等専門学校教育の充実について」に基づいて「高専の高度化」を柱とする第二期中期目標・中期計画を策定し平成21年6月に公表しました。第二期の最終年に当る今年、本校は、産業構造の変化や地域のニーズに対応するための7年一貫の教育改革案に基づいて、本科は平成24年度から専攻科は平成26年度から具体的な改革を始めたところであります。

以前より、(独)大学評価・学位授与機構による機関別認証評価や日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育プログラムの審査などの第三者評価を受審し、教育内容・方法や学校運営の改善に努めておりますが、平成21年度からは本校の教育、研究、学生支援及び管理運営等全般にわたるPDCA(計画・実行・検査・改善)サイクルを一層適切に進めるために、大学、産業界及び教育・行政機関等の地域有識者からなる「沼津工業高等専門学校運営諮問会議」を発足し、本校の第二期(平成21年度～25年度)中期計画及び年度計画に対して諮問を受ける体制を整えました。過日開催されました同会議において、平成24年度自己点検評価の検証及び平成25年度「年度計画」を主題とし、特に、本校の高度化に向けた教育改革、「1学年の混合学級、3・4・5学年の学際教育の導入及び医工連携を取り込んだ専攻科の1専攻3コースへの改編」等について貴重なご意見が寄せられ、平成25年度「年度計画」に反映させたところであります。

本校は、一昨年受審した(独)大学評価・学位授与機構による機関別認証評価において、おしなべて高い評価を受けましたが、特に「評価基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム」に対して「運営諮問会議等の評価結果を、業務改善運営ループに従い総務委員会が、担当部局に改善の指示を行い、外部有識者の意見をも取り入れ社会経済環境の変化に対応して、医療・福祉分野、環境・エネルギー分野、新機能材料分野の学際教育を行う『新教育課程(案)―混合学級と学際教育の導入―』を策定し、教育課程の改訂に結びつけている。」との高い評価が公表されており、その実質化に向けて本科は平成24年度から専攻科は平成26年度から改革を進めているところであります。

本校の教育改革が実現に至ったのは、運営諮問会議での議論や提言が大きな影響を与えた結果であり、運営諮問会議委員の皆様には変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に本校以外の有識者による沼津工業高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 諮問会議は、本校の学校運営全般について、指導及び助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。

- (1) 本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育及び研究活動に関する重要事項
- (3) その他、本校の運営に関する重要事項

(組織)

第4条 諮問会議の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
- (2) 産業・経済界の関係者
- (3) 本校が所在する地域の関係者
- (4) 本校の支援団体等の関係者

2 諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(議長)

第5条 諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

- 2 議長は、諮問会議の会務を総括する。
- 3 議長に支障があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が職務を代行する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務)

第7条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が別に定めるものとする。

附 則

1. この規則は、平成21年4月1日から施行する。
2. この規則の施行後、最初に委嘱された委員の任期は、第6条第1項の規定に係わらず平成23年3月31日までとする。

沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員

氏 名	現 職	規 則 根 拠
とうごう けいいちろう 東 郷 敬一郎	静岡大学 副学長（評価担当）	規則第4条第1項第1号委員
わか はら あき ひろ 若 原 昭 浩	豊橋技術科学大学 学長補佐／高専連携室長	規則第4条第1項第1号委員
みつ はま げん いち 三 津 濱 元 一	富士通株式会社 沼津工場長	規則第4条第1項第2号委員
まる た し のぶ 丸 田 忍	株式会社 明電舎 沼津事業所長	規則第4条第1項第2号委員
く どう たつ ろう 工 藤 達 朗	沼津市教育委員会 教 育 長	規則第4条第1項第3号委員
かやぬま さかえ 萱 沼 栄	沼津市立第一中学校校長	規則第4条第1項第3号委員
すず き まさ たか 鈴 木 政 孝	沼津工業高等専門学校 教育後援会会長	規則第4条第1項第4号委員
むら まつ まさ とし 村 松 正 敏	沼津工業高等専門学校同窓会 常任理事	規則第4条第1項第4号委員

※ 任期：平成25年4月1日～平成27年3月31日

沼津工業高等専門学校概要

沼津高専の概要



平成25年7月26日(金)

沼津高専の沿革

- ・昭和37年(1962年) 機械工学科2学級、電気工学科1学級が設置
- ・昭和41年(1966年) 工業化学科1学級が設置
- ・昭和51年(1976年) 第4学年への編入学を認めた
情報処理教育センターが設置
- ・昭和61年(1986年) 電子制御工学科1学級が設置
- ・平成元年(1989年) 工業化学科が物質工学科に改組
- ・平成 4年(1992年) 機械工学科(2学級)が機械工学科(1学級)と
制御情報工学科(1学級)に改組
- ・平成 8年(1996年) 専攻科(3専攻)が設置
- ・平成11年(1999年) 電気工学科が電気電子工学科に改組
- ・平成16年(2004年) 地域共同テクノセンターが設置
独立行政法人国立高等専門学校機構に帰属
- ・平成17年(2005年) 情報処理教育センターが総合情報センターに
- ・平成19年(2007年) 編入学を第3学年または第4学年編入学に
- ・平成21年(2009年) 東工大、静大と教育研究交流協定締結
- ・平成23年(2011年) 豊橋技科大と教育研究交流協定締結
- ・平成23年(2011年) 沼津市、静岡医療センターと連携
- ・平成24年(2012年) 新カリキュラム(学際教育)スタート
創立50周年記念式典挙行
静岡県と連携に関する協定締結

学校概要



所在地 静岡県沼津大岡3600 専攻科 機械・電気システム工学専攻
 創立 昭和37年4月1日 制御・情報システム工学専攻
 学科 機械工学科 応用物質工学専攻
 電気電子工学科 学生総数 1,100名
 電子制御工学科 施設 敷地 89,598㎡
 制御情報工学科 建物 36,017㎡
 物質工学科
 教養科

学校長 柳下 福藏

教員 79名 事務系職員 34名
 博士 53名 技術系職員 13名
 修士 22名
 学士 3名
 短大 1名 【平成25年7月1日現在】

収入・支出決算額(平成24年度)

区分(千円)		
収入	運営費交付金	155,406
	設備交付金	105,880
	自己収入(授業料・入学金等)	287,662
	産学連携等研究収入	23,863
	寄付金収入	39,909
	その他補助金	45,956
	合計	658,676
支出	業務費(教育研究経費・支援経)	351,883
	業務費(一般管理費)	97,111
	施設整備費	105,880
	産学連携等研究経費	18,544
	寄附金事業費 その他補助金	28,575 45,956
	合計	647,949

認証評価・外部評価 等

平成16年度 日本技術者教育認定機構
(JABEE)認定

「総合システム工学分野」(4・5学年+専攻科)

平成17年度 (独)大学評価・学位授与機構
「機関別認証評価」

外部評価「実技科目
(実験・実習・演習など)」

平成18年度 JABEEの中間審査

専攻科定時審査(7年毎)

外部評価「コミュニケーション・プレゼンテーション能力育成」

平成19・20年度

外部評価「工学基礎教育」

平成21年度

運営諮問会議

JABEEの継続審査
(平成26年度まで認定)

平成22年度

運営諮問会議

平成23年度

運営諮問会議

平成24年度

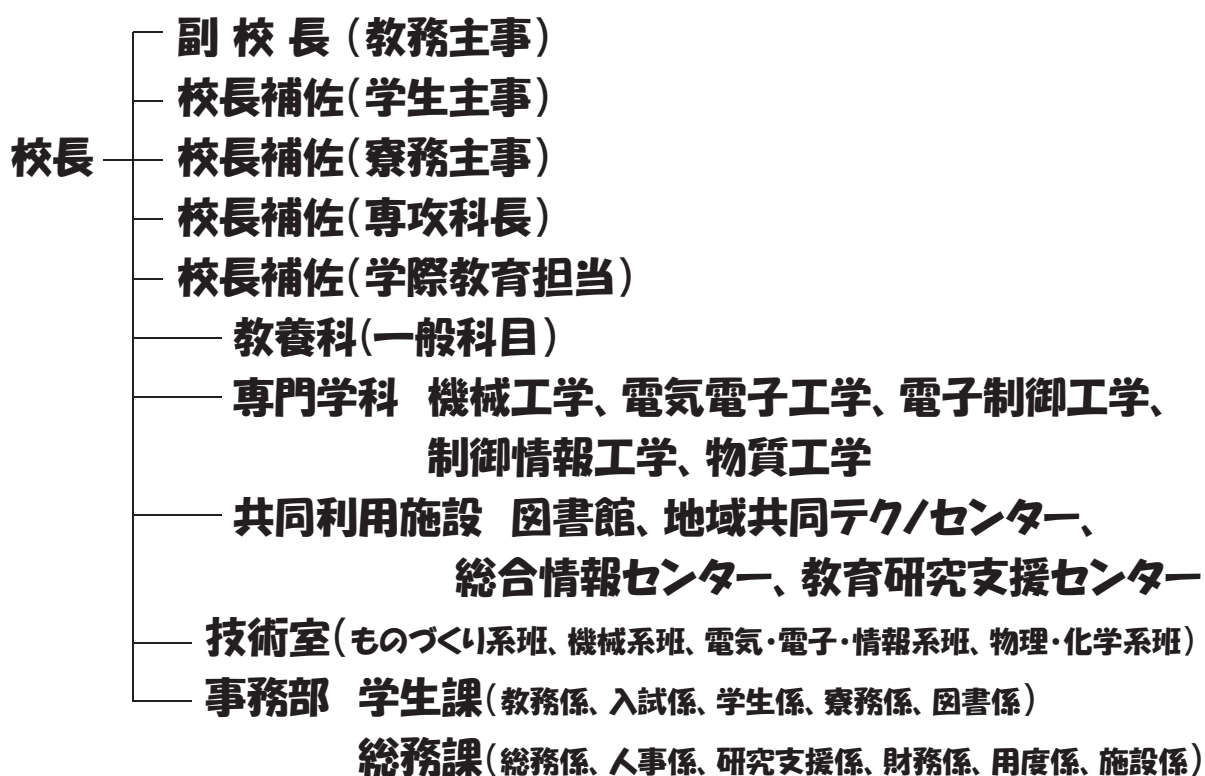
運営諮問会議

平成25年度

運営諮問会議

「機関別認証評価」

平成25年度の組織の改変



教育理念

人柄のよい優秀な技術者とな
って世の期待にこたえよ

教 育 方 針

- ・ 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- ・ コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- ・ 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応える実践的技術者の養成を行う。
- ・ 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学 習 ・ 教 育 目 標

沼津高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

- ・ 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- ・ 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- ・ 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- ・ 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- ・ 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力
のある実践的技術者

学生受入れ方針（アドミッションポリシー）

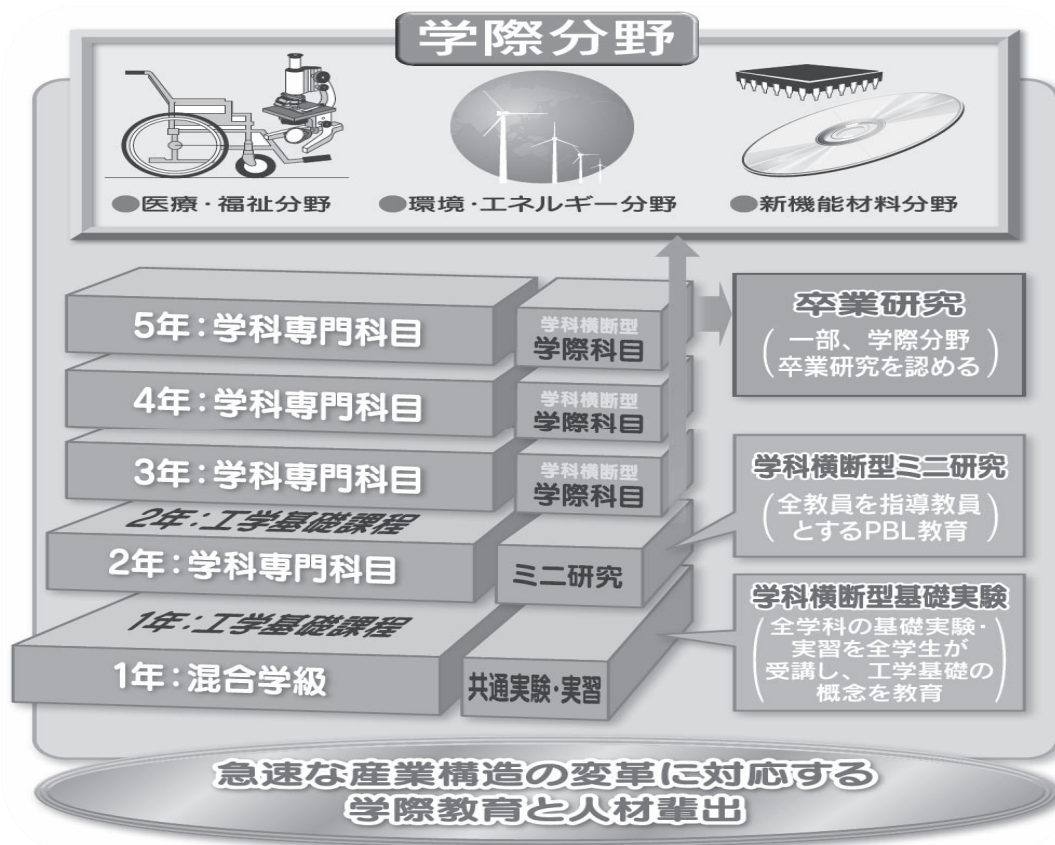
- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

平成24年度入学生より
沼津高専は新しい教育カリキュラムを導入しました

—混合学級と学際教育の導入—

目的 環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉分野を重視する近年の産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成

- 具体策
- ・低学年 ⇒ 従来からの専門導入基礎実験に加えて他分野の基礎実験実習を体験できるよう混合学級編成を導入
 - ・高学年 ⇒ 所属学科の基礎・応用科目と学際分野の科目を受講できるよう教育課程を改定



本年度スタートした 新教育課程—混合学級と学際教育の導入— の実施状況

1学年 混合学級

工学基礎Ⅰ(座学)1単位 通年

工学基礎Ⅱ(実験・実習)2単位 通年

第1期 機械・電気・情報・化学・ものづくり、5分野(10週)

第2期 機械・電気・情報・化学・ものづくり、5分野(10週)

第3期 PBL実験・実習「メカトロ・ダーツ」(10週)

2学年 ミニ研究 1単位(前期に実施)

9月28日(金) 公開発表会を実施

教育課程の学年別構成 (機械工学科の場合)

楔型教育カリキュラムの内訳 (総開講単位数：174単位)

学年	10			20				30 単位							
1年	数	学	物	理	化	学	(他の一般科目)		工	学	実	習	・	製	図
2年	数	学	物	理	化	学	(他の一般科目)		ミ	ニ	実	習	・	製	図
3年	数	学	(他の一般科目)			学	際	応	物	実		習	・	製	図
4年	(一般科目)		学	際	応	用	応	実	験	・	演	専			
5年	(一	般	学	際	卒		業	実	験	・	演	製			

卒業認定修得単位数：167単位以上

(一般科目：75単位以上、専門科目：82単位以上)

学際科目：医療・福祉(2単位)、環境・エネルギー(2単位)

新機能材料(2単位)

工学基礎Ⅰ（座学） 1単位 通年

- ・ 全1年生(216名)を3分割し、3箇所の教室で同時に授業を実施(3名の教員が授業担当)
- ・ 授業内容は以下の通り(抜粋)

員	授業内容(抜粋)毎週1単位時間の授業を通年で実施(1単位)
押川	安全教育(薬品・火気・事故対応・知的財産基礎)
勝山	高専の勉強の仕方・ノートの重要性・報告書の書き方・誤差と有効数字・地球環境(ゴミの分別と排水)
遠山	電流計・電圧計の使い方・電卓の使い方・SI単位とJIS規格

工学基礎Ⅰ（1単位 通年、座学の様子）



工学基礎II(実験・実習) 2単位 通年

- 混合学級5クラスが、5分野(機械系・電気系・情報系・化学系・ものづくり系)の専門基礎実験・実習をローテーションで学習

第1期 5分野を各2週 10週

第2期 5分野を各2週 10週

第3期 PBL実験・実習「メカトロ・ダーツ」10週

- 指導者: 各専門学科の教員2名(計10名)と、各分野に1名の技術職員(計5名)

工学基礎II:第1期(11週)のスケジュール

クラス・実施時期	4/18&4/25	5/16&5/23	5/30&6/13	6/20&6/27	7/4&7/11	7/18
1-1組	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 モーターの分解	
1-2組	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 モーターの分解	機械系分野 正しいネジの使い方	まとめ
1-3組	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 モーターの分解	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 抵抗の測定	
1-4組	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 モーターの分解	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 計測と誤差	
1-5組	ものづくり分野 モーターの分解	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	

工学基礎II：第2期(10週)のスケジュール

クラス・実施時期	7/25&8/1	9/19&9/26	10/3&10/10	10/17&10/24	11/7&11/14
1-1組	機械系分野 スターリングエンジン	電気系分野 コヒーラ	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の作成	ものづくり分野 レゴロボット製作
1-2組	電気系分野 コヒーラ	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の作成	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 スターリングエンジン
1-3組	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の作成	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 スターリングエンジン	電気系分野 コヒーラ
1-4組	化学系分野 化学電池の作成	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 スターリングエンジン	電気系分野 コヒーラ	情報系分野 プログラミング
1-5組	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 スターリングエンジン	電気系分野 コヒーラ	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の作成

工学基礎II(第2期)の実験の様子



化学系分野 化学電池の製作



情報系分野 プログラミング

工学基礎II(第2期)実験の様子



機械系分野
スターリングエンジン



ものづくり系分野
レゴロボット製作

工学基礎II(第2期)実験の様子



電気系分野 コヒーラ実験
各班創造性を生かしたアンテナを製作



電気系分分野
コヒーラ実験



LED点灯

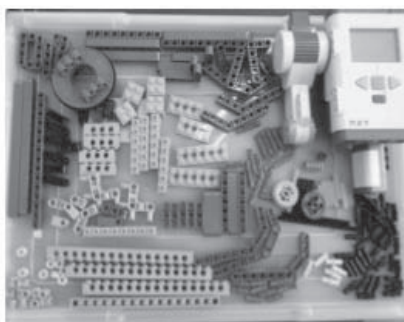
工学基礎 II : 第3期(9週)のPBL実験のスケジュール

クラス・実施時期	11/21	12/5	12/12	12/19	1/9	1/16	1/23	1/30	2/20
1-1組	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	まとめ
1-2組									
1-3組	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	
1-4組									
1-5組									

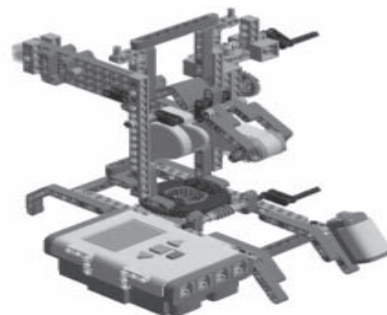
P1: ガイダンス(競技説明)
 P2: 標準機の組み立てとルール説明
 P3: アイデア出しと提案書作成
 P4: 班別作業①
 P5: 班別作業②
 P6: 班別作業③
 P7: 班別作業④
 P8: 競技会

工学基礎 II (第3期) PBL教育の取り組み準備

(第3期)は(第1期)と(第2期)の基礎実験を踏まえて、レゴブロックによるダーツを製作するPBL教育。指導する教員と技術職員は学科と専門性を越えて指導しなければならない。



レゴブロック



ダーツ

工学基礎 II (第3期) PBL教育のための の教職員への講習会の様子

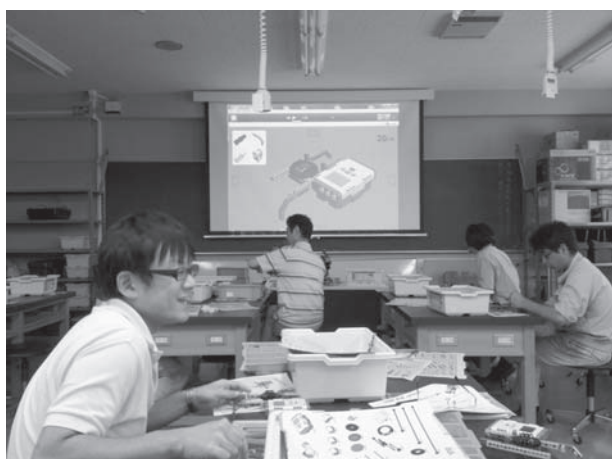


教員に対するレゴと歯車に関する講習

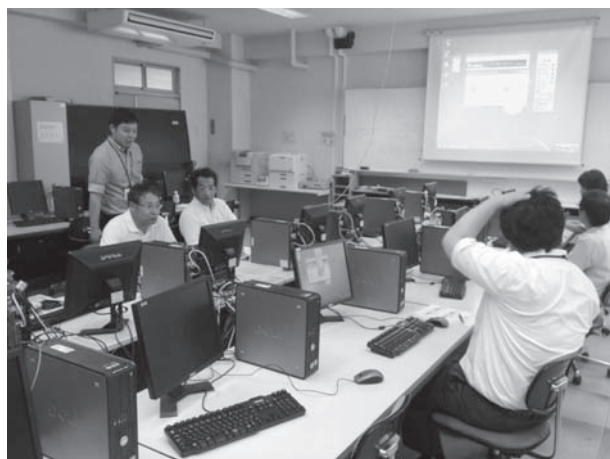


同講習会への技術職員の積極的参加

工学基礎 II (第3期) PBL教育のための 指導教員・技術職員への講習の様子

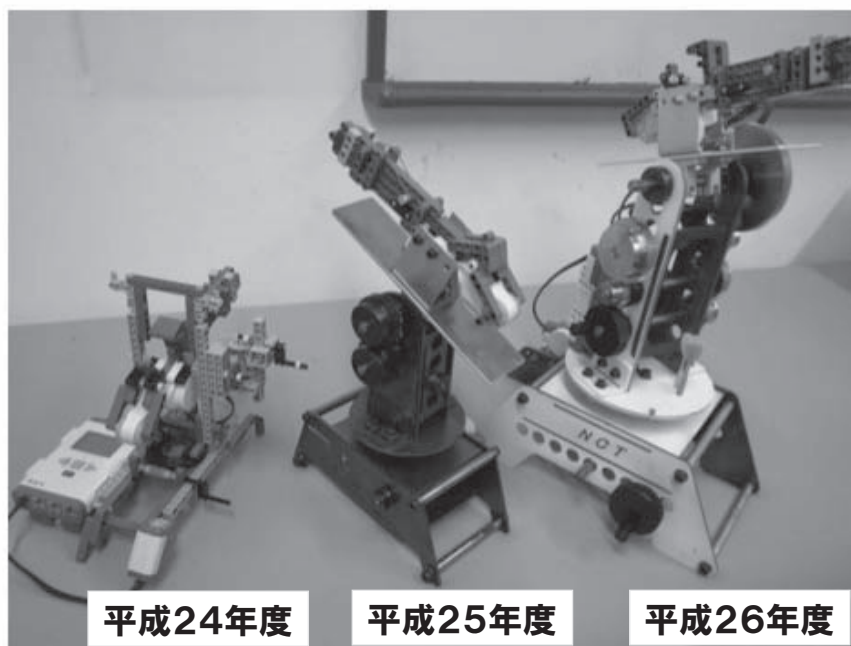


レゴ制御のプログラミング



プログラミングの講義

工学基礎II(第3期)PBL教育の目標とする作品



各年度の目標とするダーツ作品

2学年 ミニ研究(1単位) 前期に実施

【全教員を指導教員とするPBL教育】

学科を越えた学生2~3人でチームを編成し、各チームに課題を与えて、
実施計画→下調べ→研究調査・実験→まとめと成果発表
までの一連の手順を学生自らが企画・実行する。
教員はこれをサポートする。

【ミニ研究の目的】

- ① 学ぶことの楽しさを体験する。
- ② 自律的に学習する姿勢を養う。
- ③ プレゼンテーションまでの一連のプロセスを経験する。
- ④ 活動内容を第三者に伝える。

ミニ研究は教員指導型ではなく、学生自らが調査・研究を行い、ものづくりは自ら考案工夫すること。また、アカデミックな内容に偏らないこと。
成績評価：主査+副査(2名)の3名の教員

ミニ研究テーマ (全72テーマから抜粋)

テーマ名*	指導教員
化学振動で新発見しよう!	D科 江上
ブルーギル釣りを科学する	C科 後藤
流体の特性を学ぶアイデア実験器具の製作	S科 大島
ドキ☆ドキ寮のお風呂大調査!!	C科 藁科
新しい文房具を創作してみよう	C科 押川
超音波で診る	教養科 勝山
・ ・ ・	
ゴミ分別をの方法を工学的に検討する	D科 遠山

*全72テーマ中、教員・学生・保護者を含めた投票によるベストポスター賞該当研究テーマ

ミニ研究の様子



♪和音を出す風鈴

ロボカップジュニアに出場しよう



ミニ研究 発表会の様子 (9/28)



ミニ研究発表会全体の風景



保護者も参観

【現在】 3専攻（定員20名）
機械・電気システム専攻
制御・情報システム工学専攻
応用物質工学専攻

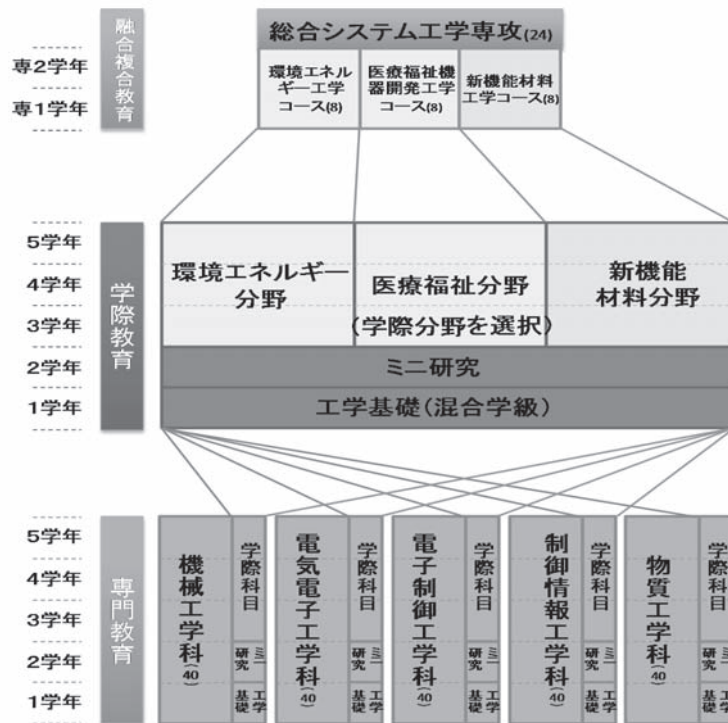


【改編後】 1専攻3コース 平成26年度より
総合システム工学専攻（定員24名）

環境エネルギー工学コース	17名
新機能材料工学コース	13名
医療福祉機器開発工学コース	21名

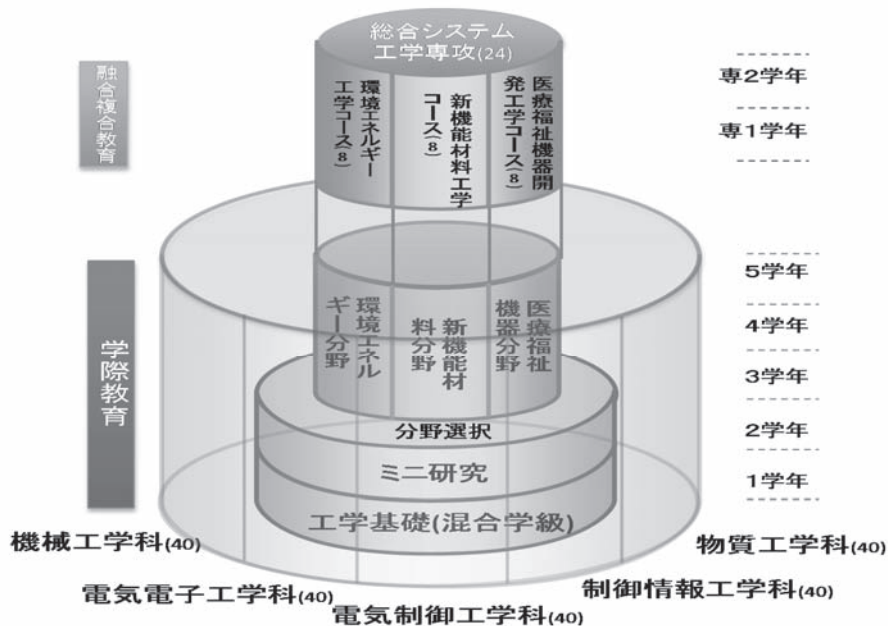
沼津高専7年一貫教育(本科・学際教育と専攻科コースの連続性)

沼津高専 学際教育・専攻科コース制概要



沼津高専7年一貫教育(本科・学際教育と専攻科の連続性)

沼津高専 学際教育・専攻科コース制概要



学生寮 現員564名（留学生11名を含む）

男子488名、女子76名 【平成24年7月1日現在】



「翔峰寮」

- 低学年全寮制
- 寮生会による自治運営

学生寮の風景



「居室」



「談話室」



「食堂」



「マテカ」
上級生による学習指導

機械実習工場



全学科の学生が
ものづくり実習を体験



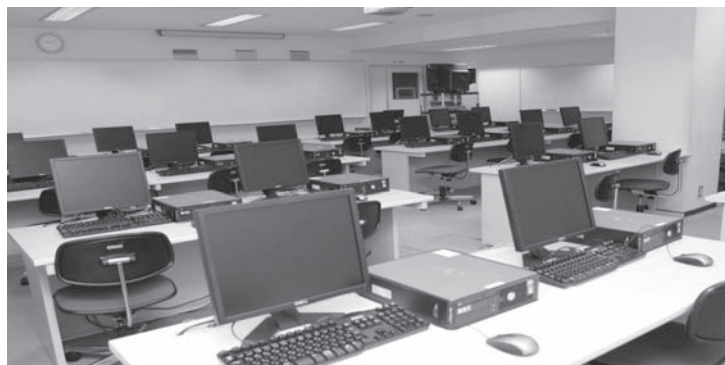
安全には特別の配慮



第1演習室

総合情報センター

第2演習室



図書館



学生の福利厚生施設



尚友会館

- 食堂
- 理容室
- 売店

学生支援ゾーン

- 学生課事務室
- 保健室
- カウンセリング室
- 学生生活支援室
- 学生キャリア支援室





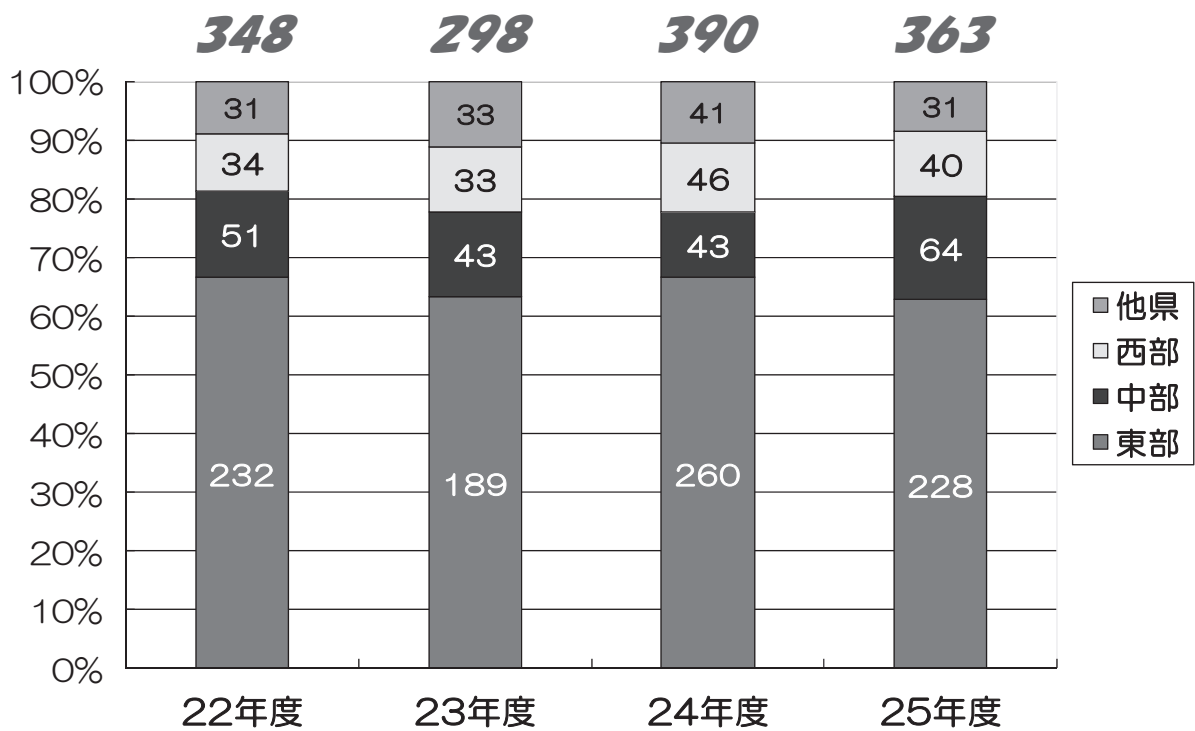
武道場

弓道場



プール

志願者地区別割合（22～25年度）



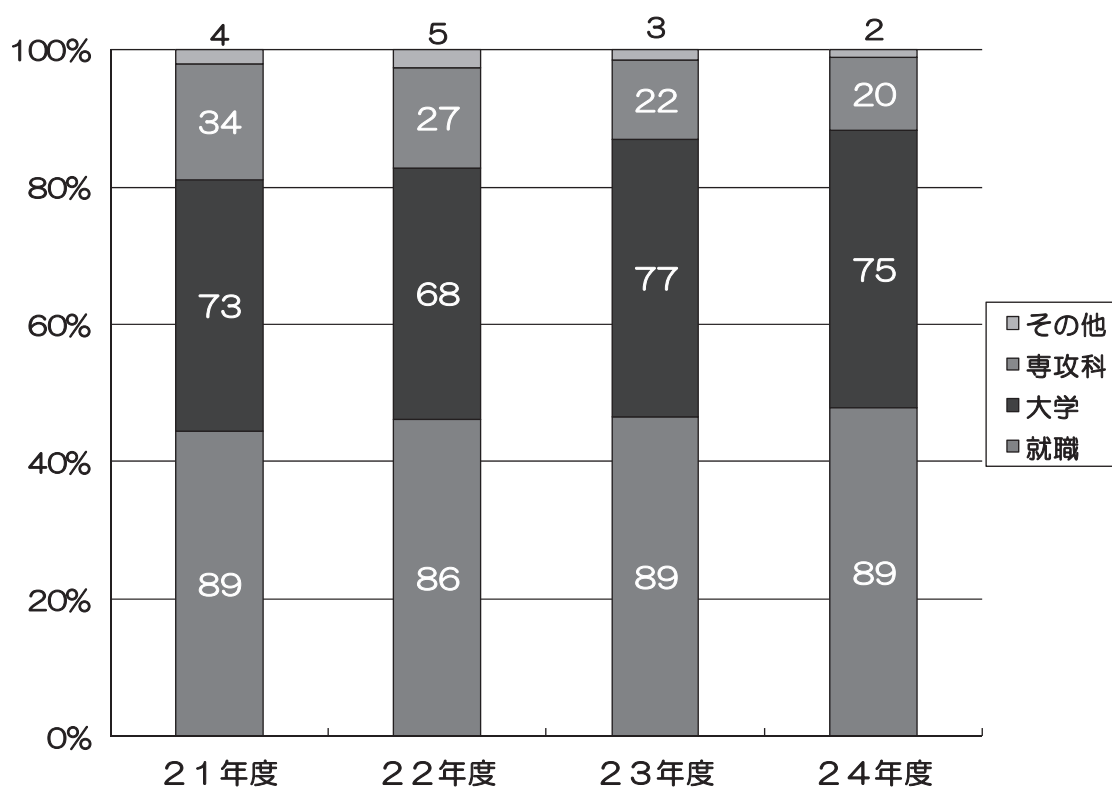
学生数（出身地別 H25.7月現在）

専攻科生を除く

地区別	静岡県			神奈川県	山梨県	その他	外国人留学生	合計
	東部	中部	西部					
学生数	688 (121)	149 (16)	121 (8)	71 (5)	3 (0)	5 (1)	10 (2)	1,047 (153)
割合%	65.7	14.2	11.5	6.8	0.3	0.5	1.0	100 (14.6)

() 内は女子数で内数・割合は、概数

卒業生進路（21～24年度）



大学編入学状況（22～25年度）

大学名	H22	H23	H24	H25	大学名	H22	H23	H24	H25
北海道	1	0	3	1	静岡	2	4	3	3
東北	3	1	2	0	名古屋	5	2	4	2
筑波	4	5	3	5	豊橋技術	22	17	16	18
千葉	1	0	2	7	大阪	1	1	1	5
東京	1	1	0	0	広島	1	2	3	0
東京農工	1	4	5	5	九州	2	0	0	0
東京工業	3	2	3	4	首都	3	0	2	1
横浜国立	2	1	1	2	立命館	2	1	0	1
長岡技術	3	7	5	3	その他	16	20	23	16

平成23年度専攻科修了生大学院入学状況

東京工業大学大学院	5名	
東京農工大学大学院	1名	
横浜国立大学大学院	1名	
静岡大学大学院	1名	
豊橋技術科学大学大学院	2名	
奈良先端科学技術大学院大学	5名	計15名

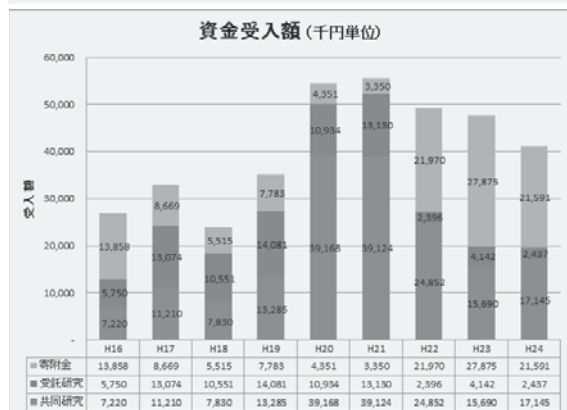
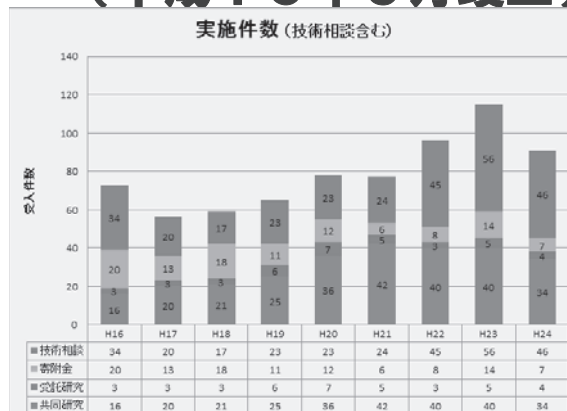
平成24年度専攻科修了生大学院入学状況

東京大学大学院	1名	
東京工業大学大学院	2名	
名古屋大学大学院	1名	
豊橋技術科学大学大学院	2名	
奈良先端科学技術大学院大学	1名	
立命館大学大学院	1名	計8名

地域共同テクノセンター（平成16年3月竣工）



※事業報告書より産学連携活動以外（預金利息，教育後援会等）を除く数字を計上



外部資金の獲得状況（平成23年度実績）

千円

	外部資金	共同研究	受託研究	寄附金	科研費	その他補助金
1. 福島高専	308,235	7,386	5,369	42,661	31,532	213,483
2. 仙台高専	197,232	7,528	18,264	11,142	① 64,358	92,885
3. 長岡高専	179,815	8,647	125,131	25,340	18,359	700
4. 富山高専	129,208	③ 12,472	23,040	20,757	② 60,883	12,277
5. 沖縄高専	127,430	8,470	58,363	23,141	18,709	4,838
6. 沼津高専	123,888	① 17,145	2,437	39,909	18,551	45,845
7. 豊田高専	116,594	4,225	2,684	27,629	31,293	44,313
8. 八戸高専	97,454	3,820	22,494	42,749	26,024	608
9. 一関高専	96,994	6,690	31,352	5,900	7,427	42,764
10. 高知高専	93,944	4,121	25,791	17,876	④ 44,768	1,388
11. 長野高専	93,186	3,830	15,414	43,919	20,009	10,001
12. 鈴鹿高専	93,606	⑤ 8,891	4,538	26,553	28,476	10,662
13. 松江高専	88,504	7,541	9,017	15,696	29,630	1,897
14. 大島商船	88,424	784	1,165	18,813	13,028	54,634
15. 鶴岡高専	85,187	② 15,441	39,046	21,432	8,125	642
16. 明石高専	81,389	3,086	6,104	24,205	25,006	22,988
17. 岐阜高専	84,756	5,244	4,763	32,968	⑤ 31,882	9,899
18. 阿南高専	78,041	4,373	12,584	17,300	22,264	0
19. 石川高専	77,865	7,857	4,920	8,777	③ 55,961	350
20. 奈良高専	76,533	④ 9,395	11,652	14,140	37,825	2,621

平成24年度 公開講座実施一覧

講座名称	受講対象者	受講者数	満足度
技術士試験対策講座(機械部門・第1次試験)	企業技術者	3	100 %
技術士試験対策講座(機械部門・第2次試験)	企業技術者	2	100 %
社会人のためのエレクトロニクス基礎講座①	企業技術者	11	100 %
社会人のためのエレクトロニクス基礎講座②	企業技術者	12	90 %
パソコン組み立て教室 -パソコンの仕組みとソフトウェアのインストーラー-	高校生以上(一般市民)	6	100 %
大人のためのロボット教室- ロボカップジュニアの指導者を目指して-	一般社会人	3	100 %
3次元CAD入門	高校生以上(一般市民)	6	82 %
固体材料分析基礎講座 -沼津高専物質工学科で分析できること-	企業技術者	2	50 %

平成25年度出前授業

学科名	授業名	担当教職員	定員 (目安)	授業概要
機 械 工 学 科	山の高さはどう測る? (三角形を使った測定)	永禮 哲生 手塚 重久 小林 隆志	40名	筒と十字の糸、分度器と水準器を使って山の高さを測る原理を勉強します。 (身の周りにある鉄塔、ビル、橋れていけば富士山の高さを測ることに挑戦 します。) 三角測量の原理を「三角形の相似」を用いて理解します。(対象中 学生)
電気電子 工 学 科	身の回りにおける電気機器のしくみ ～スピーカーはなぜ音がする? 邪魔者のACアダプター～	高野 明夫 西村 賢治	20名 程 度	日常よく目にする電気機器、今回はスピーカーとACアダプターです。スピー カーはどのようにして音を出すのか、ACアダプターはなぜ必要なか内部を 覗きながら説明します。
電子制御 工 学 科	ロボットで光るボールを追いかけて みよう	川上 誠	25名	パソコンでプログラムを作成し、ワンチップマイコンを使ったロボットが赤外 線を出すボールを追いかけるように制御します。
制御情報 工 学 科	携帯電話で会話ができる仕組み	山崎 悟史	40名	今や多くの人が使用している携帯電話(ケータイ)ですが、どうしてケータイ で会話ができるのでしょうか。私達の会話に例えて、携帯電話で会話できる仕 組みをわかりやすく説明します。普段、何げなく使っているケータイの裏側を のぞいてみませんか。
物 質 工 学 科	いろんな電池をつくってみよう、 みてみよう	押川 達夫 大川 政志 稲津 晃司 他3名	25名 程 度	これからの生活で意識しないわけに行かない「エネルギー」。電気エネルギー はこれからのエネルギーとして最も有望です。この電気エネルギーはどのよう にして得ることができるのかを、レモン電池から燃料電池までいろいろな電池 を見たり、作ったりして学びましょう。燃料電池で使う、新しい水素の作り方も 紹介します。
教養科	日常生活の中の数学	鈴木 正樹	40名	数学は社会に出てから何の役に立つのかという声をよく聞きます。実際は 様々な所で数学が活躍しているのですが、通常の授業ではそこまで学習する時 間がありません。この授業では、学年と授業の進度に応じて日常生活の中で 使っている数学の話題を紹介します。
技術室	電気分解を応用した燃料電池入門	石和 嘉衛 鈴木 猛 他2名	25名	次世代のエネルギーとして注目されている燃料電池について学びます。電気 分解を応用した実験装置を作成し、電気エネルギーがどのように発生するのか 原理について理解してもらいます。

※上記の他、22の出前授業を開講

高専機構の第2期計画期間の重点課題

課題4 各高専の個性化・高度化の推進

- 各高専の地域ニーズ等を踏まえた個性化・高度化
学科構成の見直し、新分野への展開、専攻科の拡充、
学科の大括り化やコース制の導入



沼津高専の 平成25年度 年度計画

- 平成24年度からスタートした「新教育課程—混合学級と学際教育—」を学年進行に伴い継続し、平成26年度3学年から始まる学際科目(環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉分野)の準備を進める。……学際教育推進WG
- 平成26年度から専攻科を総合システム工学専攻(環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース)に改編し、社会人の医用機器開発エンジニア養成を継続する具体策。……専攻科改編WG、F-met企画運営委員会

沼津高専の将来構想

(1) 新教育課程—混合学級と学際教育—の完成

1学年 混合学級、工学基礎教育 2学年 ミニ研究
3, 4, 5学年 医療・福祉分野、環境・エネルギー分野、
新機能材料分野 各6単位の学際教育

(2) 専攻科を平成26年度から、総合システム工学専攻 3コース(環境エネルギー工学、新機能材料工学 、医療福祉機器開発工学)に改編し、本科の学際教育 とリンクして、融合複合新領域に対応できる7年一 貫の技術者教育プログラムを構築する。

(3) 地域連携の持続的推進

- ・共同研究、受託研究、公開講座、本校学生の共同教育
- ・小中学生の理科教育の支援(沼津市と連携協定締結)
- ・門池の水質改善と水力発電を通じた環境教育

沼津高専の当面する課題

- **入学志願者数の維持**
 - **工学基礎教育の充実による留年・退学の減少**
 - 教員FD研修会による学生指導力の向上
 - 補習、専攻科生による放課後学習、学生寮のマテカ
 - **教育研究支援センターの改修及び学際教育実験棟(文科省概算要求中)の設置に伴う「医療福祉機器開発」のための実験室・研究室・実習エリア」の確保。**
 - **「専門科目合同開講WG」が中心となり、5学年の選択科目を専門5学科が同一メニューとする改革案を平成25年度中に完成する。**
 - **創立50周年記念して設立した国際交流基金の有益な活用。**
-

平成24年度 年度計画
自己点検評価表

平成24年度 年度計画
評価シート

沼津工業高等専門学校 運営諮問会議委員
平成 24 年度 年度計画 自己点検評価 評価シート意見対応表

1. 教育に関する事項	学校側の対応等について (校長、副校長、4 校長補佐及び該当の各委員会委員長等の意見)
<p>(1) 入学者の確保について</p> <p>(柳澤委員) ・広報誌、学校訪問、50 周年式典等通じ広報活動は積極的に行われており、受験生や保護者の関心を集め志願倍率は維持できている。 <u>・女子学生の確保は一高専の努力だけでできるものではないが、数値目標を定めて取り組むことが望ましい。</u></p> <p>(若原委員) ・50 周年記念事業を、高専の情報発信の機会として捉えた広報、中学への広報、女子学生増に向けた活動など、精力的に活動を行っている。短期的に結果の出るものではないため、長期視点で、入学者の追跡調査と併せて進めていることは、大変評価できる活動と思います。</p> <p>(三津濱委員) 確実に志望者を獲得している(H23 年度 1.49 倍⇒H24 年度 1.95 倍、H25 年度 1.8 倍)ことを評価。 1) 近隣地域プロモーション: 中学校訪問、1 日体験入学等のオープンキャンパス 2) 女性へのアプローチ: <u>広報誌「キラキラ高専ガール」高専生をもっと多く社会へ出す(一学年の数を増やす)取り組みを検討願います。</u></p> <p>(丸田委員) ・創立50周年記念式典に合わせて広報活動を展開したり、推薦選抜の志願者を地区別に分析し、減少地区への対策を実施した等、入学者の確保と志願者の質の維持に向けた取り組みに努力が伺える。 ・<u>入学者の確保については、特に、少子化に加えて「理科離れ」、職業選択・進路決定の先送りする風潮、普通高校志向など厳しい現実がある。このような中だからこそ、高専のメリット、特長、教育内容、寮制度、在校生及び卒業生の活躍を中学生とその保護者、そして中学校、関連者に理解、浸透させる活動を期待する。</u></p> <p>(工藤委員) ・入学者の確保については、様々な工夫がされており、実績もあるので評価「S」で良いと思う。</p> <p>(名倉委員) ・色々な努力の結果が受験生の獲得につながっていると思います。 <u>・安定した受験生を確保を目指して、他高専、他大学に無い風土を作り上げて欲しい。</u></p> <p>(西岡委員) <u>・広報活動に力を入れて頂いていると思います。これからも多くの人に沼津高専の特色と素晴らしさを知って頂ける様、努力して欲しいと思います。</u></p>	<p><担当部署> ○アドミッション委員会(校長、副校長) ・入試広報全般について(副校長) 15 歳人口の減少、理科への関心の薄れなどが進む中で、志願者の増加に繋げていくのはなかなか難しい状況ですが、安定した志願者の確保や本校に適性のある入学者の確保に向けた様々な広報活動を引き続き実施していく方針です。(副校長)</p> <p>・女子入学者の確保について(副校長) 本校の入学者に占める女子学生の割合は、平成 21 年度:15%、平成 22 年度:12%、平成 23 年度:16%、平成 24 年度:18%、平成 25 年度:16%と若干ですが微増傾向にあります。 国立高専全体の女子学生の割合は約 17%ですので、これを上回る 18%が当面の数値目標と考えています。 また、高専機構と各高専においては、科学技術分野への女性の参画を積極的に推進しており、女子学生の確保にも高専機構全体として取り組むこととしているため、「キラキラ高専ガール」の活用の他、本校独自の中学生向け学校案内リーフレットにおいても、女子中学生を強く意識した紙面づくりとしました。広報誌からも女子学生にとって魅力ある進学先であることをアピールしました。</p> <p>・高校や私立大学での広報活動も参考に、沼津高専の魅力発信方法を研究、改善してまいります。(副校長)</p> <p>・現在進められている沼津高専の教育改革「混合学級と学際科目の導入」「専攻科の改編」を成功させることが他高専、大学にはない、沼津高専の新たな魅力創造につながるものと考えております。(副校長)</p>

(2)教育課程の編成等について

(柳澤委員)

- ・学際教育、混合学級、ミニ研究等、ねらいとした教育課程が着実に実行に移されている。
- ・専攻科改編(コース制)計画の了承が得られ、25年度の詰めと26年度からの実施が期待される。
- ・学生の全国や地域での活躍・活動ニュースを随時 Web トップページで紹介したほうがいい。(もし NEW TOPICS になじまないならば、新たなコーナーを設けるのもよい)

(若原委員)

全体的に、計画を前倒しの方向で進められているので良いと思います。

但し、④の計画では、「4、5年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価を継続して実施し」となっていますが、実施状況では記述がありません。実施されているとは思いますが、その概要を説明頂戴します。

その他、気づいた点:

②の自己評価が記載されていません。

④の実施状況で、「数学と物理の達成度試験に参加する」は、「……に参加した」とすべきでは?

(三津濱委員)

学校教育は、技術だけでなく多様性を学ぶ場であり学科の壁を払った「混合学級」を評価。また、ソフトウェアは実体験が重要であり、ロボコン、プログラミングコンテスト、ハッキング技術全国大会は有効。

英語教育で TOEIC は一つの評価手段であり、実際に英語を使う場/使おうとする意識を育ててほしい。

「ゴミフェスタ」の参加等、地域活動への参加は社会人としての作法を学ぶ場でもある。

(丸田委員)

・教育の質の改善を目的として、「学際教育」のミニ研究発表や新教育課程を適用した授業にアンケートを実施し、問題点の洗い出しと次年度以降への反映を進めている点は、意欲的取り組みとして評価できる。

・英語力の把握・向上の取り組みでは、実施状況によると全体の平均点の向上が図られたようであるが、各人別(学年や専攻等)の到達目標は示されているのか。また、各人のレベルをどのようにフィードバックし、学習意欲向上に結び付けているか。

(工藤委員)

・学科の壁を取り払った「混合学級」の考え方は、大変重要であると思う。人間力及び総合的技術者育成には必要であり、更に進展させていただきたいと思います。

(名倉委員)

・高専を離れた時に必要な知識はOBを通して、各企業の考え方を吸収、反映させて欲しい。

・学校での学生の知識吸収には、学生の興味をどんな風に引き付けていくかが重要だと思います。

(西岡委員)

・学校関係者の皆様の日々の努力により、いち早く学際教育を取り入れたり、時代のニーズに対応した改革を進めて頂き感謝しております。これからも、現在に満足する事なく、躍進して行って頂きたいと思います。

<各担当部署>

- 教務委員会(教務主事) ○学生委員会(学生主事)
- 専攻科長(校長補佐) ○学際教育担当(押川)

・ご指摘の件、ホームページ上に何らかの方法で掲載する方向で検討致します。(副校長)

・ご指摘の「4、5年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価」は実施致しました。教務担当教員が担当がクラス学生に計算させた結果をとりまとめ、担任に返し、学生指導用の資料として提供致しました。(副校長)

②の自己評価が空欄のものをお送りしてしまいました。申し訳ありません。ここはS評価とさせていただきます。(評価担当)

④機構が行った数学と物理の到達度試験に参加しました。(副校長)

・ネイティブスピーカーの英語による専門に関する授業の実施、多数の会社での海外インターンシップ実施、本校独自または他高専が行う語学研修会など、様々な英語教育の場を提供し、英語の必要性、有用性を体験的に学ぶよう支援しております。(副校長)

・ご指摘の点、個人別の英語力達成度目標は設定されておりませんでした。就職試験や編入学試験の際に、TOEIC スコアの呈示が求められる傾向にあることから、まずは、4年生の後期から個人別の達成度目標を掲げさせる指導を検討致します。(副校長)

・「混合学級」とした昨年度の1年生の平均点数は微増でした。各クラスとも「元気」がある印象でした。退学者数は3名と昨年度と変わりませんでしたが、留年者数は2名に半減しました。今後とも、注意深く観察すると同時に、混合学級の良さを引き出す工夫を行います。(副校長)

・昨年度は、全学年で実施したキャリア教育の中でOBの強力なご支援を頂きました。企業で求められるスキルや考え方をOBから教えて頂きました。(副校長)

<p>(3)優れた教員の確保について (柳澤委員) ・計画通りに教員の確保や育成の取り組みが行われている。 ・機構本部への表彰対象者の推薦が叶わず残念であったが、引き続きの努力をお願いしたい。</p> <p>(若原委員) ・単に、優れた教員を採用するのではなく、現職の教員の能力を向上させる取り組みは、評価が高い。今後も、この方向を継続してください。 その他、気づいた点： <u>④の計画に記載の、「女子寮巡回日(曜日)を設定し実施する」についての、実施内容の記述がありません。</u></p> <p>(三津濱委員) 知識を得るための教育についてよく配慮されている。 <u>社会への適合として、企業人の活用など言及してほしい</u></p> <p>(西岡委員) ・とても努力されていると思います。これからも、学生達のために、人生の先輩としても尊敬でき、信頼できる教員の確保に努めて頂きたいと思います。</p>	<p><担当部署> ○校長、副校長、各校長補佐</p> <p>・H24年度新規採用女性教員がいないため改めて要望をきくことは実施しませんでした。ただ変更の希望があれば対応します。(寮務主事)</p> <p>・4回行われた教員FDのうち、1回は企業OB(本校OBでもある)を講師に招き、企業が求めている人材像、キャリア教育の在り方についてご講演頂き、教員の意識改革につなげました。(副校長)</p>
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステムについて (柳澤委員) ・様々な観点から、教育の質向上・改善に係わる取り組みが着実に行われている。 ・地域企業やOBとの連携により、高専らしいキャリア教育の取り組みが展開されている。 ・<u>④に関し、授業工夫実践例をWeb上で公開する計画であったが、公開されているか。(探し方が悪いのか見つけられなかった。それとも学内限定公開?)</u></p> <p>(若原委員) ・<u>OBによるキャリア教育支援の取り組みは、大変有効なものだと思います。学生の追跡調査を通して、その成果を明らかにするとともに、全国高専へ広めていくことを機構を通じて主張してはいかがでしょうか?</u> その他、気づいた点： <u>⑧に記載の、東海地区5高専・・・の部分は、東海地区⑤高専と豊橋技術科学大学の連携協定に基づく活動として実施したものです。参加者の利便性を考えて、第2回教員研究集会開催日に併せて実施しました。</u></p> <p>(三津濱委員) <u>インターンシップは社会学習として有効、参加学生 106名は評価。地域企業との「共同教育」はどんどん企画を、協力します。</u></p> <p>(丸田委員) ・<u>インターンシップは、貴校にとっても企業にとっても有益である。是非、継続するとともにインターンシップを経験する学生の増加を図り、今まで以上の取り組みとなることを期待する。</u> ・<u>キャリア支援室の設置はよいこと。低学年から自己を捕らえ、将来の進路について自ら考えさせる機会を多く与えて欲しい。</u></p> <p>(西岡委員) ・<u>努力の成果が出ていると思います。これからも学生達のためになる取組を進めていって頂きたいと思います。</u></p>	<p><担当部署> ○校長、副校長、各校長補佐</p> <p>・学内限定のポータルサイトで公開致しました。学外に向けた発信について、教務委員会へ諮ります。(副校長)</p> <p>・H24年度で「企業技術者等活用プログラム」が終了したため、H25年度から新たなキャリア教育支援プログラムを構築し、自立化を図っています。予算が無くなったので従前のようにOBを活用できませんが、可能な限りOBの支援も仰いで行きます。(学生主事)</p> <p>⑧の記述を、ご指摘のとおり連携協定に基づくものである旨、追記いたしました。(評価担当)</p> <p>・有難いご提言に深謝申し上げます。地域企業でのインターンシップ、積極的に企画させていただきます。(副校長)</p> <p>・有難いご提言に深謝申し上げます。インターンシップの新たな取り組みとして、専攻科1年生の後期に4か月の長期インターンシップを計画しております。ご支援の程、お願い申し上げます。(副校長)</p>

<p>(5) 学生支援・生活支援等について</p> <p>(柳澤委員) ・50周年記念事業の一環として国際交流基金が創設され、今後の成果が期待される。</p> <p>(若原委員) ・全体的に順調に計画が進んでいると思います。</p> <p>その他: <u>②の中で、寮のAC設置完了の下りは、実施計画と関係ないように思われます。</u></p> <p>(三津濱委員) 心のケア(学外カウンセラー)は評価。</p> <p>(丸田委員) ・着々と環境整備、設備の導入・更新に努められています<u>が、学生からの意見や要望はどのような形で吸い上げていますか。</u></p> <p>・学生支援活動は、多岐に亘る事業を展開され評価できる。マンモス校にはない高専の強みを生かして、教職員が1人の学生に向き合う貴校の学生生活支援は恵まれた教育環境です。特に、<u>貴校の伝統ある寮生活は、価値ある生活支援であり、今度とも継続し、学生の自立心向上に努めて欲しい。</u></p> <p>(工藤委員) ・メンタルヘルス関係は充実していると思います。特に「Q-U」を2回実施していることは素晴らしいと思います。</p> <p>(名倉委員) ・国際交流基金の使用結果については、同窓会への報告をお願いします。</p> <p>・女子学生が増加しています。施設、食事当について配慮をする必要を感じます。</p> <p>(西岡委員) ・学生達のためによく配慮して頂いていると思います。難しい年代の子供を預けさせて頂くので、保護者も学生も安心して学生生活を送れるよう、より一層、改善して頂くのと有り難いと思います。</p>	<p><担当部署> ○学生委員会(学生主事) ○寮務委員会(寮務主事) ○図書委員会(図書館長)</p> <p>・寮のAC設置完了の記述は、機構本部及び本校の中期計画に左右されるものであることから、具体的な年度計画としては明示しておりませんが、中期計画の中に、「寄宿舍改修などの計画的に整備する」とあり、これに対応した実績として記述させていただきました。(評価担当)</p> <p>・女子学生の更衣スペースの設置については、女子学生へのアンケート結果に基づいています。(学生主事)</p> <p>・今後とも低学年全寮制を維持していきたいと思いません。(寮務主事)</p> <p>同窓会理事会等の機会を利用して報告させていただくことといたします。(事務部長)</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用について</p> <p>(柳澤委員) ・教育環境の整備は、計画的に行われていると判断できる。</p> <p>・<u>省エネルギー計画について、具体的な数値目標を掲げて取り組んでいくことが望ましい。</u></p> <p>(若原委員) ・計画に記載の「<u>施設の課題を盛り込んだ利活用整備計画案を策定し、実施していく</u>」について、<u>実施状況の記載がありません。</u>全体的には、計画を立てて推進されていると読み取れるので、問題はありません。</p> <p>(丸田委員) ・「<u>施設の老朽度</u>」とあるが、<u>どの程度なのか。</u></p> <p>・<u>省エネ・CO2削減などのエコ対策事業には、年度毎の具体的な数値目標を立案し、それに対しての達成をトレースしているのか。</u>取り組んだ内容だけの記載では、<u>どの程度効果があったのか分からないため評価しづらい。</u></p> <p>(西岡委員) ・学生達のために、よく考慮して頂いていると思います。これからも学生達が安心して楽しく生活できるよう配慮して頂けたらと思います。</p>	<p><担当部署> ○施設整備計画委員会(校長) ○安全衛生委員会(副校長) ○事務部(事務部長)</p> <p>・機構本部への予算要求する関係もあり、具体的な数値目標は掲げにくい状況です。(事務部長)</p> <p>・平成24年度は施設の利用整備計画を策定する前段階として施設の点検評価を実施しました。(事務部長)</p> <p>・経年20年以上の建物面積は30,459㎡(全体面積の80%)、30年以上は26,095㎡(68%)である。</p> <p>・高専機構全体の取り組みとして、「平成16年を基準とし8%削減する」との目標を掲げて行っているため本校としても、その目標に向けて取り組みを進めています。 (事務部長)</p>

2. 研究に関する事項	学校側の対応等について
<p>(柳澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業界や企業と連携した研究を推進し、成果があがっている。 ・<u>科学研究費等の獲得活動のみならず、成果の出ている獲得実績についても数値をあげて記述することが望ましい。</u> (後掲のⅢ. 予算の欄に記載されてはいるものの) ・<u>Web上でのデータによると、学科における女性研究者(教員)が少ないと思われるので、採用の努力をお願いしたい。</u> <p>(若原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の獲得額がトップクラスとのことですので、この方向で取り組みを継続していただきたい。 ・新しい共同研究テーマを探査するためには、ニーズ調査が重要で<u>す。シーズ発信と合わせて地元の産業界と連携したニーズ調査を行って教員に提供する活動について、検討下さい。</u> <p>(三津濱委員)</p> <p>地元企業と連携した研究活動は評価。 <u>教授陣の研究活動と、高専教育とのシナジーについて言及してほしい。実際には、専科までいかないと繋がらないかとも思うが、卒業後の連携も含め考えを聞きたい。</u></p>	<p><担当部署> ○地域連携・研究支援委員会(テクノセンター長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費の獲得実績は今後自己点検評価表に記載します。なお、H24は13件14,300千円でした(継続課題含む本校教員が研究代表者分)。 ・寄附金、寄附研究部門、共同研究など公開可能なテーマと、科研費のテーマ名および担当教員はホームページに一覧掲載しています。しかし、各テーマの金額は企業名等が推定できることなどから、掲載は見送っています。ただ、項目毎での総計等の公開についてテクノセンターWebサイト内に実績グラフを掲載していますが、リンク等の公開方法を検討したいと考えます。 ・教員公募の際には「本校は男女共同参画を推進しており、女性の積極的な応募を期待します。業績及び人物の評価において、同等と認められる場合は女性を採用します。」を必ず記載し、女性教員採用に努めています。しかし、応募自体が少ないのが現状で、引き続き、今後の課題であると考えます。これまではシーズの公開に力を入れており、多くの共同研究等に結びつけることができました。しかし、ご指摘通り、今後は地域企業のニーズを集め、どのような研究分野あるいは内容が地域で必要とされているかを調査し、教員に提示することは有用であると考えます。まずは、地元企業の方が高専に集まる「テクノフォーラム in 沼津高専」においてアンケートを取る事を検討致します。 ・研究活動における学生教育とのシナジー効果として、研究活動を通じた最新技術の教授と共同研究への多くの本科・専攻科学生の参加があげられます。しかしこれらはインターンシップなどとは異なりシステム化されておらず、またアウトプットも明確ではなく、掲載しておりません。今後とも共同研究への学生の積極的な参加を呼びかけ、年度計画への記載を検討したいと考えます。 ・卒業後の共同研究等の学生教育を含めた地域企業との連携は重要であり、本校としても地域でのプレゼンスを上げるためにも、実現したい事項ではあります。これまで、一部の学生が共同研究先に就職した例はありますが、殆どの学生が進学あるいは大手企業等に就職するため、地元に残ることは少ない状況です。このため、共同研究は後輩が引き継いでおり、卒業後の連携は共同研究のみで、学生教育は無いのが現状です。ただ卒業生から共同研究テーマ(技術相談)を受ける事例がありますので、地元企業との交流を通して、連携についての形や連携への対策方法(例えば地元企業に就職している学生の一覧作成と交流会の開催等)を検討して行きたいと考えます。(地域共同テクノセンター長)

3. 社会との連携や国際交流に関する事項	学校側の対応等について
<p>(柳澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は、人材育成と地域産業の育成に大いに貢献している。 ・産学連携、地域連携ともに活発に行われている。 ・卒業生ネットワークの活動やホームカミングデーの初実施など、同窓会との連携強化が図られている。 ・学生の国際交流の実績が着実にあがってきている。国際交流基金の設置により、今後さらなる成果を期待したい。 <p>(若原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種連携事業が実施され、学生などへの配慮もされており、評価は高いと思います。 <p>(三津濱委員)</p> <p>地域貢献と海外交流は評価。</p> <p>(丸田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>創立50周年記念式典に当たり、当年度は例年に比べ同窓会や地域、関係者と交流する機会が多く、卒業生をはじめとして意見や提言が寄せられたのではないかと。そうした意見・要望を是非次年度の計画に生かして頂きたい。</u> ・<u>国際化に対応した観点から、海外派遣研修、留学生の受入、国際交流事業への参画機会の拡大等、様々な取り組みの継続や拡張が必要。(現状のブラッシュアップ)</u> ・<u>なお、今後の研究活動や企業の海外展開が加速している昨今では英語の実力が求められており、TOEICのスコア改善を目指した取り組みを継続して欲しい。</u> <p>(名倉委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>公開講座を各市の商工会等の協力を得て、もっとPRすると中小企業の現役従業員の参加が増加し、地元への貢献が顕在化すると思います。</u> ・<u>今後「沼津高専エンジニア'Sネット」の活用を増加させて欲しい。</u> ・<u>留学生の受入を増加させ、国際交流を更に活発化させて欲しい。特に東南アジア、海外に出て行くだけが国際感覚を養う事ではなく、人脈作りが必要である。</u> 	<p><担当部署></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携・研究支援委員会(テクノセンター長) ○各校長補佐 <p>・創立50周年を機に国際交流基金が設立された。この基金で様々な海外研修、留学、海外インターンシップへの参加者を経済面で支援してまいります。加えて、校内でもネイティブスピーカーによる、専門に関する集中講義を校長リーダーシップ経費で開講するなど、海外での勉学を支援してまいります。(副校長)</p> <p>・公開講座の応募数拡大のため、ホームページへの掲載はもとより、沼津や三島を始め近隣の商工会議所、共同研究先などにダイレクトメールにて案内しています。さらなるPRのため、今後はダイレクトメールのみならず、直接訪問して案内するなど更なる積極的なPR活動を検討したいと考えています。(地域共同テクノセンター長)</p> <p>沼津高専同窓会「沼津高専エンジニア'Sネット」との連携は本校でも期待しており、今後は具体的な事例の実施につなげたいと考えています。(副校長)</p> <p>・留学生の受入数については機構本部が差配しています。(学生主事)</p>

4. 管理運営に関する事項	学校側の対応等について
<p>(柳澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもとに、適切なマネージメントが行われている。 ・男女共同参画の推進やハラスメント防止の観点からの取り組みの充実が期待される。 <p>(若原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④計画に記載の「技術職員」の高専技術職員研修会には、<u>当然参加されていると思いますが、実施状況で記述が見られませんので、エビデンスとして記述された方が良いと思います。</u> ・⑦会議等の効率的な運営に関しては、<u>会議時間の厳守が一人歩きして議論が不足しては本末転倒なので、将来的に議論を尽くすところは時間をかけて拙速な議論にならない配慮をお願いします。</u> <p>(三津濱委員)</p> <p>教育者と組織/ファシリティーの管理業務の両立は難しい。<u>他事業体との交流は評価できるが、目的は何か。適正な管理業務のあり方についての言及がほしい。</u></p> <p>(名倉委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害について、更に地域との繋がりを作ることが大事だと思います。 ・学校としてのBCPの検討をしておく必要があると思います。 	<p><担当部署> ○校長、事務部長、技術室長</p> <p>ご指摘のとおり技術職員は、毎年開催される高専技術職員研修会に出席しており、実施状況の中にそれに関する記述が欠落しておりましたので記述したいと思います。また、昨年は、技術職員の企業研修も実施しており、これについても記述いたします。(事務部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機関との人事交流制度の目的については、その事業運営・業務のやり方等を学び、そこでの経験を通して、当人の仕事の幅や考え方等において多様性・柔軟性等を涵養し自己成長を図るとともにその経験を本校の業務にフィードバックするのが目的です。特に本校では経験する機会が少ないが、経験値としては必要とされるものを他機関に出したことによって経験をするという意味は大きい(特に契約、施設等)(事務部長) ・本校体育館を災害避難所とする近隣地域5自治会が主催した「避難所運営マニュアル」作成会議の討議に参加し、体育館等の見学会を実施する等、地域との連携を図っている。(事務部長)
<p>5. 総合所感 (本校の教育研究・運営体制等全般に関して、どのような事でも構いませんので、ご自由にご記入ください)</p>	<p>学校側の対応等について</p>
<p>(柳澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体として、校長の強力なリーダーシップのもとに、教育・研究・地域貢献活動がバランスよく遂行されているものと評価できる。 ・ホームページに関し、日常的なニュース・トピックスに関し、<u>行事等の情報提供、学生・教職員の活動紹介など、少し分類して提供するほうが閲覧者にとって見やすいのではないか。</u> ・教育に関し、入学者の開拓確保、在学者の教育プログラムの充実についてはしっかりと中期計画や年度計画にうたわれ着実な取り組みが行われているが、<u>出口(就職や進学)については必ずしも明確な方針や計画がみられない。卒業・修了後の就職や進学の在りようをどのように考えて教育するのか、どのような卒業・修了認定方針を示すことが望まれる。(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーに対応するディプロマポリシーの確立が必要ではないか)</u> ・「運営諮問会議」の委員を3年間務めさせていただき、各委員の多様な意見に対する学校側の一体感ある真摯な対応に沼津高専の底力を実感いたしました。 	<p><担当部署> ○校長、副校長、校長補佐、各委員会委員長</p> <p>・本校は設置目的を「幅広い場で活躍する実践的・創造的な技術者の養成」においております。この観点から、教育課程表をはじめ、様々な教育が行われております。その集大成が卒業生・修了生の進路であると考えております。つまり、出口を見据えた教育を行っているものと考えております。(副校長)</p>

(若原委員)

・校長先生のリーダーシップの下、メリハリのある計画を立てて、実施されているように思います。

・技術者の教育機関として、実践力を向上させる専攻科生による本科生支援、重複科目の合同開講科目の設定、地域社会との連携による富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラムなど、学生の自力をつけるプログラムが多数設定されており、この方向で技術者養成を進めていただきたい。

・教員自身が、グローバル対応力、企業での開発経験などが少ないと、上記の教育を活かし切れない点についても、社会で活躍してこられたOBを招いて、実践力や経験の伝承の場を設けており、意欲と興味のある学生にとっては、非常によい環境を提供されています。

・ただし、過度なプログラムは、メンタル面に弱さを抱えている学生には重荷になるので、教員などがアドバイスして学生が参加するプログラムの取捨選択を行う体制があればさらに良いシステムとなると思います。

・逆に、メンタル的に弱い学生が、メンタル面を強化する取り組みなどが用意できると、技術教育の沼津高専モデルとして確固たるものになっていくと思います。

(三津濱委員)

高専には、①優秀なエンジニアの社会への提供、②地域研究機関としての社会貢献、の二面がある。

① 優秀なエンジニアの社会への提供

質についての活動は素晴らしいが、量への取り組みを検討いただきたい。高専機構のあり方にもかかわると思うが、企業として重要なエンジニアのお供給源だが、総人口が少なすぎる

② 地域研究機関としての社会貢献

大学のミッションと被る部分だがどう位置づけるのか。静岡県東部は理系大学に乏しく、沼津高専は重要だが、大学と違い卒業生が即、高専の研究陣に加わるのは少ないのではないかと。企業間連携を含めた人材交流の枠組みが必要では、と考える。

また、教授として研究と教育の両立をどう見るか。生徒からは、教授の研究者としての姿を見ることはよい経験であるが、隔離した研究部門の併設等も、視野に入れてはと考える。

(丸田委員)

・近年、企業ニーズ対応するための学科再編や、人材育成や協力体制を強化するため市や高専、技術科学大学との協定締結、共同研究や受託研究等で外部資金獲得に努められ全国トップクラスの資金を受け入れるなど、新しいこと、各方面への働きかけに積極的に取り組まれ、大きな成果を挙げられている。

・「幅広い場で活躍する多様な技術者の養成」をめざし、企業のニーズにあった高度な技術者を育て、同時に海外で活躍できる人材を育てて欲しい。また、自発的学習能力を身につけ、継続的に自己啓発できる技術者の要請に努めて欲しい。

・企業に入って活躍できる能力の一つにコミュニケーション力がある。コミュニケーション力は、社会に出て大変重要な要素と言うこともできる。

社会奉仕活動、自然体験活動などのボランティア活動は得るものが大きいと思いますし、この活動を通してコミュニ

・ご指摘頂いたキャリア教育、ピアサポートのいずれもが学生の選択による授業や取組です。メンタル面で弱い学生に負荷をかけないように注意を払っております。一方で重要なお指摘がメンタル面で弱い学生のメンタル強化の課題と考えております。特に、本校の学生のメンタル面での弱さは、就職試験を行った企業から多くの指摘を頂いております。難しい問題ですが、避けて通れない重要な課題と考えており、具体策を立て早期に実施してまいります。(副校長)

・①のご指摘は、私たちも同感です。逆に、企業の皆様から政府へ働きかけて頂きたいと存じます。(副校長)

・沼津高専で行われている企業との共同研究の多くが地域中小企業との共同研究です。この研究には、専攻科生、本科5年生が参画し、優れた研究成果を上げてくれています。実用化され、製品化される研究成果も多数出ております。これらの取り組みは、沼津高専における教育を日々新たなものとしてくれています。(副校長)

・本校で取り組んでおります教育改革「混合学級と学際教育」の導入は、次世代が求める技術を創造できる技術者養成を目指した変革です。ご期待下さい。加えて、創立50周年を記念し設立された「国際交流基金」は、在学中に一度は海外で学ぶ機会を持って欲しいとの校長の強いリーダーシップから生まれたものです。この基金を生かす教育を企画してまいります。(副校長)

・コミュニケーション力の養成について、本校は550名を超える学生寮での教育と生活、寮生会活動、学生会活動、クラブ、学級と様々な仲間との交流、研鑽の場を設

ケーション力を高めて欲しいと思います。

近年、活動的な新入社員がいる一方で、受身の者も多く見受けられます。これらの違いは、学生時代までの環境に大きく左右されているようです。学生時代に、様々な活動を経験させてください。

コミュニケーション力向上のための取り組みを期待したい。

(工藤委員)

・全体的に自己評価点を良くした方が自然である。大変頑張っていると思います。

(名倉委員)

・評価Aが多く、課題が見えにくい気がします。

地域、地元の中小企業への人材供給も大事な事(少子化、人口の減少、製造業の空洞化)と捕らえて欲しい。

(西岡委員)

・私には、専門的な事や難しい事は分かりませんが、今まで役員としていろいろな場面で、校長先生をはじめとする諸先生方や関係者の皆様の学校や学生達に対する取組や姿勢というものを拝見して参りました。その度に、皆様の真摯な姿勢にいつも頭が下がる思いです。感謝しても感謝しきれない思いで一杯です。日々、学生や学校のために最善を尽くされているお姿を見て子供達は生活し、成長していると思います。本科で5年間、専攻科まで入れると7年間という長い歳月をかけて培った先生方や学校関係者の皆様との絆や信頼関係は他の学校とは比べものにならないくらい深いものだと思います。過日、学生主事からお話がありました高専祭の売り上げの一部を東北の義援金にという学生達の優しい気持ちや、連休でアルバイトをして有志のみんなで働いたお金を義援金に・・・という事。学生主事自らも参加されると伺い、生徒も先生も本当に素晴らしいと感動しました。校長先生をはじめとする諸先生方、学校関係者の皆様におかれましては、大変お忙しいと存じておりますが、これからも子供達のために、お力添えを頂ければ幸いです。これからもよろしくお願いたします。

以 上

けており、高校にも大学にも勝るとも劣らぬコミュニケーション力の養成の機会を提供しているものと考えておりますが、これに満足することなく、人を思いやることのできる技術者養成を目指します。(副校長)

・多くの課題をご指摘頂いたと考えております。国際化への対応、コミュニケーション力の養成、メンタル面での弱さ対策、企業OB・OGの活用等。

平成26年度入社卒業予定者では、中小企業への内々定が増加しました。地域企業への人材供給にも配慮してまいります。(副校長)

沼津工業高等専門学校
平成25年度 年度計画

沼津工業高等専門学校 平成 25 年度 年度計画

(前文)

独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の中期目標・中期計画を踏まえ策定した沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の計画（第2期中期計画）に基づき、平成25年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

- ① 近隣市町村の教育委員会などとの連携を深め、中学校理科教員への支援策等を含め、更なる中学校との連携強化を検討する。本校独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県（神奈川・山梨県）の中学校への広報活動を引き続き積極的に行う。
昨年度に引き続き、マスコミと連携した本校の魅力発信を行うことを検討する。
また、教職員による中学校訪問も引き続き積極的に行うとともに、中学校主催の進学説明会にも積極的に参加する。
- ② 本校の授業内容の一部が体験できる「中学生のための体験授業」、「ミニ体験授業」、「出前授業」の体験型オープンキャンパスと、「一日体験入学」、「進学説明会」、「キャンパスツアー」の見学型オープンキャンパスを実施する。
女子学生の志願者確保の観点から、女子中学生を意識した入試広報パンフレットを作成するとともに、高専機構作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。
- ③ 中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料を作成するとともに高専機構に広報資料を提供する。高専機構作成の広報資料の有効活用を行う。
- ④ 入試成績と入学後の学力との相関関係等などについて分析を行うだけでなく、最寄地受験制度などについても引き続き検討する。
- ⑤ 入学者の学力水準を維持、向上を目指すとともに、入学志願者数の確保（広報活動の充実）・維持に継続して努力する。

(2) 教育課程の編成等

- ① 平成24年度、学際教育導入の一環として実施された1年次混合学級と工学基礎Ⅰ・Ⅱの授業・実習、2年次ミニ研究について、本年度も改善しながら実施する。平成26年度の3年次以降の学際教育の導入に向け周到な準備を行う。

専攻科においては、現行の専攻科複合実験に加え、平成26年度より1専攻3コースとした融合・複合領域の教育改編に向け、「専攻科改編WG」が中心となって、高専機構及び大学評価・学位授与機構等への申請業務を進める。併せて、改編後の専攻科の教育課程表と時間割を作成するとともに、専攻科の運営規則を見直して平成26年度からは新しい運営規則で運営する。

本科の学際教育及び1専攻3コースに改編後の専攻科において充実した学際3分野の教育を実施するための施設として学際教育実験棟(仮称)を概算要求する。

科学技術戦略推進費事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は5期生を受け入れ、4、5期生に対して計画通り育成事業を行う。また、本事業が最終年度(H25)にあたり、東海大学開発工学部からの大型備品の移管も含めて最終年度のとりまとめ作業(報告書の取りまとめ等)を行う。また、前述の専攻科の改編に本事業の自立化を組み入れると同時に、引き続き社会人の育成について検討を行う。

- ② 機構が提示したモデルコアカリキュラムの充足を確認した上で、平成24年度入学生より適用を開始した新教育課程、すなわち、1年生の混合学級と工学基礎Ⅰ・Ⅱ(共通実験)及び2年生にミニ研究の内容を改善しながら継続して実行する。沼津高専独自の共通実験指導書や工学基礎Ⅰのテキストを平成25年度中に作成し、発行配布する。新教育課程の3・4・5学年の学際教育科目の担当教員を決め、シラバスを作成し、運用のための教務関係規則について検討する。

新教育課程(学際教育と混合学級の導入)及び新専攻科(1専攻3コース)の学生への周知に努める。

「専門科目合同開講WG」の検討を継続して合同開講科目の増加に務める。

- ③ 1,2年生でTOEIC Bridgeテスト、3,4年生でTOEIC IPテストを全学生に受験させることを継続する。その結果を活用し、技術者として必要とされるコミュニケーション能力を伸ばさせる方策を検討する。3年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」に継続的に参加し、その結果を活用して、該当科目の修得状況を把握し、教養科と専門学科とで連携して数学、物理の力を伸ばすための教育改善に役立てる。4年生で工学系数学統一試験を全学生に受験させることを継続する。

- ④ 平成 24 年度に改善した授業評価アンケートを継続的に実施する。授業評価アンケートの結果を教育改善に反映させるため、教員個人調書により教員の授業改善実施状況を把握する仕組みを活用する。
- 3 年生と 5 年生による学習到達度自己評価と 4、5 年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価を継続して実施し、H24 年度から移行した新教育課程による教育課程改善の効果の検証に役立てるためのデータを蓄積する。
- 卒業生による学校評価の継続的な実施について、頻度や方法について検討し計画を策定する。
- ⑤ 平成 25 年度においても引き続き、高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、英語プレゼンテーションコンテストなどに積極的に参加し、運営に協力する。専攻科では、例年と同様、静岡県東部地域の近隣大学間共同学生研究発表会や技科大との連携教育研究プロジェクト学生成果報告会、高専シンポジウム等、学会への所属を要せず参加できる研究発表会での研究発表を積極的に奨励する。情報処理教育の観点からは、例年と同様、プログラミングコンテストに積極的に参加する。また、企画を改善し学内プロコンを実施する
- ⑥ 全学年全クラスで校内外の清掃を行う、クリーン活動を実施する。また、学生会を中心に校外でのボランティア活動を行う。さらには、1 年生のオリエンテーション研修、3 年生のスキー研修を通じて自然体験活動を行う。寮においては、寮生による近隣中学校放課後学習支援および休日学習支援を継続する。

(3) 優れた教員の確保

- ① 教員の採用は公募制を原則とする。昨年度と同様、本校外の勤務経験や 1 年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を、採用・昇任にあたって重視し、教授・准教授については、これらの経験を持つ者が、全体として 60%を下回らないようにする。
- ② 高専・両技科大間教員交流制度について、引き続き積極的に参画すべく検討する。
- ③ 昨年度と同様、専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高等学校等における教育経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として 70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として 80%を下回らないようにする。

- ④ 引き続き、女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。窓口となる女性教員を中心として機構が主催する男女共同参画事業に積極的に参加するように努める。
- ⑤ 教員相互の授業参観を引き続き実施するとともに教員FD研修会との結合も検討し、授業参観の改善を図る。
また、機構が開催する「教員研修（クラス運営・生活指導研修会）」や一般科目研修等に積極的に参加者を派遣する。
前年度に引き続き、教員FD研修会を最低年4回（5月、7月、10月、12月予定）実施し、教員個々の教育力向上に資するための取り組みを継続する。
生活指導に関し主に高等学校教員を対象として年5回開催される「生徒指導沼駿地区研究協議会（生地研）」に教員を派遣する。
- ⑥ 引き続き、優秀な教職員への意識の高揚の観点から、機構本部で実施する教職員顕彰制度に積極的に推薦していく。
- ⑦ 引き続き、教員の国内外の大学等での研究又は研修等への積極的な参加を推進するとともに、それらの円滑な遂行に向けての学内体制（非常勤講師等の予算措置等）の整備を図る。

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

- ① 高専機構が主催する「全国高専教育フォーラム」や各種シンポジウムに積極的に参加する。全国高専デザインコンペティションと同時開催することになった。「学生による3次元デジタル設計造形コンテスト(CADコン)」に参加する。平成25年度「大学間連携共同教育推進事業（KOSEN 発イノベーション・ジャパン）」の連携校として引き続き事業の運営に協力するとともに、「社会実装コンテスト」に参加するチームの増加に努める。
- ② 資格取得に関しては、特に英語によるコミュニケーション能力の向上を推進する目的で、TOEIC及び工業英語能力検定の受験を推進する。
専攻科を1専攻3コースに改編後も日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定が維持できるようにするとともに、学際分野（環境エネルギー、新機能材料、医療福祉）の実験、演習テーマを作成する。
- ③ 教育研究交流協定を締結している東京工業大学、静岡大学及び豊橋技術科学大学との具体的交流の実現を推進する。寮において他高専との交換寮生を引き続き実施

する。学生会においても他高専との交流活動を積極的に推進する。

- ④ 本校教員による授業の工夫実践例を継続的に調査収集し、本校のポータルサイト上に公開することにより全教員で情報共有し互いの授業改善に有効活用するとともに、工夫実践を促す。
- ⑤ 高専機構の第2期中期計画に示されている「文部科学大臣の認証を受けた者による評価など多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように、評価結果及び改善の取組例について総合データベースで共有する。」に対応すべく、平成23年度に受審した大学評価・学位授与機構による機関別認証評価結果を高専機構の総合データベースに掲載するとともに、本校HPにも掲載し、広く一般に公表する。
- ⑥ 引き続きインターンシップ、及び地域企業との「共同教育」の取り組みを推進する。
- ⑦ 低学年からの一貫したキャリア教育を試行するために「学生キャリア支援室」の活用について検討する。
- ⑧ 教育研究交流協定を締結した東京工業大学及び静岡大学をはじめ、豊橋技術科学大学等との連携を生かした具体的取組を継続して実践し推進する。
- ⑨ 高専IT教育コンソーシアムのメディア教材の活用も視野に入れ、学内 e-ラーニングで利用可能なコンテンツの収集を継続し充実を図る。
- ⑩ 平成25年度の新規LANシステムという環境の下、総合情報センター、電子制御工学科、制御情報工学科の情報処理演習室の教育用計算機システムにおいて、ソフトウェア環境を最新の状態に保ち、質の高い計算機環境を提供する。
- ⑪ 一般科目と専門科目の教授内容等に関する情報交換の機会を継続的に持つ。学科の枠を越えた教員相互の授業参観を実施する。

新1年生の混合学級による教育及び2年生のミニ研究を通して、学科の枠を越えた取り組みを推進し教育の質の向上を図る。

全学科教員が参加する教員FD研修会を継続的に開催し教員の教育力向上と教育の質の向上を図る。専門学科で類似した講義の合同開講を目指した合同開講WGにより検討を進め、合同開講科目を増加して教員の負担軽減を図る。

(5) 学生支援・生活支援

- ① 全ての教員を対象としたメンタルヘルス講習を教員FD研修会にて実施する。学生生活支援室及びカウンセリング室主催の講演会等を実施する。また、学生主事主催で課外教育特別講演会や、クラブ活動及び全教員対象の救急救命講習会を実施する。さらには、低学年クラスに対しQ-Uテストを実施する。寮生リーダー研修において引き続き救命救急講習を行っていく。
- ② ハイブリッド図書館構想として電子ジャーナル等の導入を検討していくとともに、新カリキュラム対応の資料も引き続き整備していく。図書館改修の予算要求を検討する。寮については、寮の管理体制を検討し、新寮の予算要求を検討していく。
- ③ 各種奨学金に関する情報を集約した学内限定ホームページの情報の更新を行う。50周年記念事業の一環として創設された国際交流基金の運用を開始する。
- ④ 「学生キャリア支援室」を中心に低学年からの一貫したキャリア教育を実施する。前年度に引き続き、静岡新聞社企画・運営、本校主催の学内合同企業説明会を実施する。各学科の就職担当教員・インターンシップ担当教員を中心に、企業情報・就職情報等の提供を充実させる。
- ⑤ 女子学生のために、女子トイレ等に更衣スペースの増設を検討する。

(6) 教育環境の整備・活用

- ① 本校の「ものづくり」教育の拠点である機械実習工場を「教育研究支援センター」として改組し、本校の高度化再編に対応した教育研究支援の体制整備を図る。また、営繕事業の要求により承認された第2機械実習工場の改修を実施する。
- ② 施設の点検、評価を踏まえてマスタープランを再構築し、施設整備を推進・実現できるよう年次計画を策定する。また、校舎等の省エネ・CO2削減などエコ対策事業についても、本校の「エネルギーの使用状況及び省エネルギーの方策」に基づき、実施していく。平成25年度は、引き続き学生寮の日照調整フィルムの貼付を計画する。
- ③ 安全衛生管理のため年一回の講習会及び安全パトロールを継続して実施する。平成22年度に作成した安全衛生に関する資格等取得者のデータベースに基づき、外部の各種講習会に教職員を順次積極的に派遣する。

2 研究に関する事項

- ① 高専機構及び技術科学大学が公募するプログラム並びに文部科学省等が公募する競争的資金の獲得に向けて積極的に応募するため、引き続きメール配信や Web 掲載により教員へ周知すると共に、外部資金獲得に向けた説明会を開催する。また、共同研究に関する情報を得るため、広域の産学連携関連イベント（全国高専テクノフォーラムなど）に積極的に参加する。さらに、地域産業界に本校教員の研究成果を公開する「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」を昨年度に引き続き主催する。
- ② 寄付研究部門「水素利活用技術研究部門」を期限である 9 月まで設置し、その成果の公開に努める。また、県・市町村や商工会議所のイベントにも積極的に参加し交流を図り、本校教員の研究活動や設備等を積極的に紹介し、技術相談を行う。これらの活動を通して、共同研究・受託研究の受入につなげるとともに、テクノセンターニュースの発行、教員の研究シーズ集の内容更新を行い、積極的に情報を発信する。教員の活動実績等を記載する「教員個人調書」に、共同研究・受託研究・技術相談対応等の実績記入欄を追加するとともに、共同研究の事前試行の経費を校長リーダーシップ経費で予算化する。
- ③ 本校が維持する知的財産について、静岡 TTO に情報を提供し、知的財産の資産化に努める。また、Web 上で知財情報を公開すると同時に、シーズ集に掲載するなど、知的財産の資産化に向けた取り組みについて検討を行う。

3 社会との連携、国際交流等に関する事項

- ① 静岡県の東部地域再生計画に基づき、引き続き「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（以下、「F-met」と称す。）」事業を主催し、医用機器開発技術者の養成を行うことにより地域貢献を推進する。また、静岡県東部における医工連携の推進のため、専攻科に科目等履修生として社会人を受け入れ、継続的な人材育成を検討する。補正予算で導入された設備および既存のテクノセンター設備および各教員が所有する設備を取り纏め、施設や設備の計画の基本データとする。併せて教育研究支援センター（旧：実習工場）の改修に併せて機器・機材の適切な配置に努める。
- ② 例年発行するテクノセンターニュースを継続発行し、また本校教員の研究・技術シーズ集の内容更新を行い、研究シーズを積極的に発信する。さらに、県内外のイベントに参加すると共に、引き続き「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」

や「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」など、地域の産学官連携行事を主催すると同時に積極的に参加して共同研究等の成果を発信する。

- ③ 近隣市町の教育委員会に働きかけ、中学校教員との情報交換の機会を持ち、中学校理科教員の支援などについて具体的方法を検討する。中学生を対象とした体験授業を継続して実施する。
- ④ 社会人対象の公開講座を専門学科と教養科の全ての学科から1講座以上実施し、技術者育成への取り組みとして、更に講座数を増やすように努める。またアンケート等により、ニーズや内容の検討を行う。また、現在 F-met で行っている地域技術者の医用・福祉機器開発のための人材育成事業の継続について検討を行う。
- ⑤ OB人材の活用を図るため同窓会との連携を深めるとともに、OB人材の活用策を検討する。
- ⑥-1 高専機構等が推進する国際交流事業等に積極的に参加する。本校独自の取り組みとして、学生の語学研修や異文化体験事業を推進する観点から、アメリカ（シアトル）にて語学研修を実施する。
- ⑥-2 機構主催の「海外インターンシップ・プログラム」等の国際交流プログラムに学生を積極的に応募させる。
- ⑦ 国際交流室を中心とした留学生の受入体制の強化（日本語の特別補講の実施、チューターの配置、留学生指導教員の配置など）を図るとともに、高専機構が主催する第3学年編入学試験（外国人学生対象）に参加し、私費留学生を受け入れる。
- ⑧ 在籍する留学生を対象とした見学旅行を前年度に引き続き実施する。また、東海地区高専留学生交流会（スキー研修）に参加する。

4. 管理運営に関する事項

- ① 引き続き、校長リーダーシップ経費配分の際に、全ての申請者からのヒアリングにより効率的な配分を行うと共に、学内設備整備マスタープランによる設備の計画的な導入・更新とあわせ、教育研究設備維持運営費により継続的な保守体制を整備することにより、本校の戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

- ② 中期計画の達成に向けた年度計画の策定及び改善等において、運営諮問会議委員の意見を反映すべく、構築された「業務改善システム」の適切な運用に努める。
- ③ 引き続き、高専機構において示された「事務マニュアル」に基づき運營業務を実践し、業務の効率化を図る。また、あらゆるリスクに対応できるよう、リスク管理室を中心にリスク管理体制（危機管理体制）の強化を図る。また、公的研究費の不正使用防止の観点からガイドラインに沿った校内監査等を実施する。
- ④ 昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員の能力向上を図るため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発表会等に参加させる。
技術職員については、技術職員の能力向上を図るため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発表会等に参加させる。東海・北陸地区高等専門学校技術職員研修会及び西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修等に参加するとともに、技術職員の能力向上および地域貢献のため、自分の専門と異なった分野の研修会にも積極的に参加させる。また、昨年度同様に中学生のための体験授業や科学実験講座の支援をするだけでなく、引き続き、技術職員が中心となる出前授業は年度当初に実施報告書を提出する。
- ⑤ 昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員については、国立大学法人や高等専門学校間などの人事交流を積極的に推進する。技術職員の人事交流についてはこれまで同様、技術長会議等で積極的に検討する。
技術職員については、国立大学や高等専門学校間などの長期休暇を利用して積極的な人事交流を試みる。企業研修として昨年同様に3週間程度を計画しており、他高専との人事（業務）交流は1週間程度の人事交流を検討する。
- ⑥ 平成25年は、新規に導入されたLANシステムが安定的に運用できるように管理担当者のスキルを上げる。
- ⑦ 職場の労働環境の整備に力を入れ、教職員の勤務時間の把握や過重労働の根絶等、働きやすい職場環境を構築する。また、その一環として各種委員会の合理化（整理統合）等を図る。

5. その他

2市2町（沼津市、三島市、長泉町、清水町）が連携して発足した「静岡県東部地区技術振興協議会」の実務を司る「静岡県東部地域イノベーションセンター」の充実に協力する。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

- ① 一般管理費（人件費相当額を除く。）については3％，その他は1％の業務の効率化を図る。
- ② 契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を確保する。
- ③ 引き続き、高専機構で実施する高専相互会計監査を受審する。

III 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

引き続き、外部資金（共同研究、受託研究、奨学寄附金、科研費等）の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加に努める。

IV 短期借入金の限度額

（該当無し）

V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

香貫宿舍跡地について、機構本部と協議し、利活用の方策を検討していく。

VI 剰余金の使途

（該当無し）

VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備に関する計画

平成24年度補正予算により、第2機械実習工場の改修を図る。

学際教育対応のため、新棟（学際教育実験棟）の概算要求を進める。

2 人事に関する事項

（1）方針

教職員の人事交流を積極的に進め多様な人材の育成を図ると共に、各種研修に積極的に参加し、資質の向上を図る。教員の技術科学大学及び高専間交流並びに事務職員の県内機関との交流を引き続き推進するとともに、他県の機関との交流を検討する。

（2）人員に関する事項

学際教育導入、専攻科の改編予定に伴い、教員の人員配置について高専機構の任期制教員も含めて検討を行う。常勤職員について、引き続き、業務改善目標等評価基準を活用し、その職務能力を向上させるとともに、アウトソーシング等も含めた事務の合理化を進め、再雇用制度を活用した有効な人員配置計画を検討する。

3 積立金の使途

（該当無し）

以上

平成25年度 年度計画意見表

平成25年度 年度計画意見表

○入学者の確保

【東郷委員】

- 入学者の確保に向けた計画が立案されていると思います。
- 高等専門学校は通常の学校教育制度と異なった制度であり、ホームページや学校案内に相互の関係、編入学制度等説明してある。このことを中学卒業から就職後までのキャリアとして分かり易く説明してはどうでしょうか？
- 沼津高専独自の取組みである混合学級、2年生のミニ研究、学際領域の教育を積極的に進学説明会で取り上げるとよいと思います。

【若原委員】

- 新入学生の獲得には、高専教育に対する父母の理解が大前提。①、②の説明会では、父母参加で開催されているとは思いますが、生徒と父母の参加比率は如何か？分析結果を踏まえて、場合によっては積極的に父母参加型を謳って広報することも検討されたい。
- 今後の15歳未満人口の動向を踏まえて、入学者募集の広域化を進める。たとえば、他高専にはない「医療機器開発エンジニア養成コース」への受験生を、全国的に募るなど、中期計画で検討されては如何か？
- 女子学生確保のため、女子学生のキャリアパスを紹介するのみならず、近隣の企業の協力を得ながら女性技術者の活躍例を紹介するなど、卒業後の進路情報を伝えて、父兄の理解を得る
- ④の分析をさらに進めて、入学後のつまづきやメンタル面での不安を払拭する防止のため、専門学習適正チェックQ&A(仮)等を開発して活用してはどうか？

【丸田委員】

- 平成24年度の実績評価を見ると、学力水準の維持や志願者数の中期的な増加など積極的な入試広報活動の成果であると思われ努力を評価します。

【工藤委員】

- 中学生(中学校の教員も同様)は高専に対するイメージが他の専門高校同様分かりにくいいため、進路に悩む場合が多い。パンフレットでもよいので、在校生の高専生に学校生活について話をしてもらうようにしたら良いと思う。
- 少子化は今後も続くため、①～⑤は継続的に実施する必要がある。

【萱沼委員】

- 募集担当者が中学校に出向いて「高校説明会」を開催することは、それなりに効果が期待できることと思いますが、やはり中学校が直接高校(高専)に出向いてその雰囲気を感じることができることが大切であると考えます。体験型・見学型オープンキャンパスなど、内容や広報活動を工夫して高専へ足を運ばせることが必要であると思います。
- 進学先を選択する中学生にとって、高専の学科や学習内容が実感できず、まだまだ分かっていないのが現状です。中学校やその保護者を対象とする独自の広報資料は大変有効であると考えます。

【村松委員】

- 中学生が関心を持ち、進学したいと思わせる魅力あるホームページへのリニューアルを提案したい。特に、昨今の学校、企業のホームページはとても見やすく、横長で文字も大きくなっている。また、卒業生の活躍の様子など(企業トップなど)も取り入れ保護者へのPRの仕方の工夫も必要と思う
※本校のHPは縦長で左右に余白があり、古いイメージと思われる。

【鈴木委員】

- 高専の存在は、今までの熱心な後方活動のおかげで、近隣市町の保護者には十分知られていると思います。ただ、敷居が高いとか、遠い存在に感じている方が多くいることを感じます。また、中学生のほとんどが通う学習塾の一部で、高専を目指すクラスを作っている所もあり、そちらへのアプローチも一考かと思えます。
ただ、非常に残念ですが現在の保護者は、学業に関し中学校よりも学習塾の意見を尊重する傾向が見られます。学習塾へのアプローチは中学校との信頼関係を損なう恐れもあるので慎重に行う必要があると思います。

平成25年度 年度計画意見表

○教育課程の編成等

【東郷委員】

- 全般的に、特徴ある教育と実効ある教育を進める計画になっていると思います。
- 1年次混合学級、2年次ミニ研究、3年次以降の専門基礎教育と学際教育の導入、また、複合・融合領域を意識した専攻科の改編は、興味深い取り組みであると思います。5年、さらにプラス2年の教育により、どのような学生を輩出するのかを全教職員で共有することが重要であると思います。

【若原委員】

- コース再編中のため、過度な変更や改革は行わず当初計画を粛々と進めるとともに、追跡調査と分析に基づくPDCAサイクルを実施していただければ良いと考えます。
- TOEICの成績から、英語力は分かるが、技術者として必要とされるコミュニケーション力のレベルをはかれるのか疑問？コミュニケーションは、相手の話を聞いて、相手の考えを理解し、自分の考えとの違いを分析し、自分の主張を相手にも理解してもらうことで、初めて成り立つと思います。コミュニケーション力を測る手法を決めて、その結果を踏まえた対応策の検討を行うべきと考えます。

【丸田委員】

- 企業としては、「変化に対応できる実践力のある人材」を育てていただきたい。現在でも様々な教育カリキュラムや取り組みを実施されていますが、制度や活動のレパートリーを揃えても、結局は個人の意志で参加が決まる活動が多いということはありませんか。キャリア形成と絡んでくるかもしれませんが、個人にスポットを当てたフォローはできないでしょうか。（既に行われているのかもしれませんが。）
学生（高専）時代に、様々な経験をしてもらいたい。

【工藤委員】

- 学際教育と混合学級の導入は大変良い試みであり、積極的に推進して欲しい。
- 将来を担う技術者に必要なコミュニケーション能力として、英語教育は重要である。
TOEICの受験は効果的であり、高得点者には、海外研修などのチャンスを与えるシステムも研究したら良いと思う。

【萱沼委員】

- 昨年度から実施された1年次混合学級と工学基礎Ⅰ・Ⅱの授業・実習、2年次ミニ研究等については、特に入学当初の学生にとっては大変有り難いことだと思います。今後は、学生の生の声を聞きながら昨年度の成果と評価を踏まえて改善しながら実施していくことが重要であると思います。
- 創造力豊かな技術者を目指す学生にとっては専門的な技術の習得だけでなく、全校で実施する清掃活動や自主的なボランティア活動・自然体験活動など地域社会への貢献活動は、とても有意義な活動であると思います。また、近隣中学校放課後学習支援及び休日学習支援は中学校側からも大変有り難いことです。

【村松委員】

- H23年度高専機構の実施した「高専卒業生アンケート」の内容は卒業年次5層について全国レベルで実施されたものであり、卒業生の生の声として教育内容について示唆に富んだ内容と判断する。教員全員がこの内容を十分に理解し、今後の教育課程の編成の参考にしてほしい。
- 特に、①教員の質の向上 ②教育内容・方法の充実 ③国際交流 の3点が他に比べ、圧倒的に多い点を着目すべきと考える。

【鈴木委員】

- 平成24年度から導入された、学際教育はよりよい技術者を育成するためには、非常によい教育課程だと思います。この新教育課程の結果がでるのはまだまだ先の話ですが、今から楽しみです。
また、企業での技術開発では主にチームで行うのが普通ですが、必要なのがコミュニケーション能力です。そして、バランスの獲れた横と縦のつながりです。そこで、1～5年生でグループを作り、野外生活研修を行ってはいかがでしょうか。携帯電話、スマートフォンは一切なし。それぞれがしっかりとコミュニケーションをとれないと生活すらできないということを自覚して頂くこと、リーダーシップの育成などなど、いろいろ体験できると思います。

平成25年度 年度計画意見表

○優れた教員の確保

【東郷委員】

- 優れた教員の確保は、高等教育機関として極めて重要な事項であると思います。そのためには、採用と人材育成が重要であり、両観点からの計画になっていると思います。
- 教員の評価システムや採用昇格基準は定められているのでしょうか？

【若原委員】

- 企業を退職された高専OBによる、学生への教育支援に加えて、若手教員に対するもの作り現場の技術開発の知恵を伝授する講習会や、メンター制度などを導入することで、優れた資質を持つ教員の「もの作り教育力」の向上を図ることを検討されたい。

【萱沼委員】

- 「教育は人なり」と言われるように、教員は学生に大きな影響を与えることは言うまでもありません。教員の学位資格や業績だけでなく、人柄や教育に対する考え方や熱意も踏まえた優れた教員の確保が必要であると思います。そのための採用方法や教員研修システムを見直すことも大切であると考えます。
- 優れた教員の確保に向けて具体的に数値目標を立てて取り組んでいることは、大変素晴らしいことだと思います。

【村松委員】

- 企業技術者養成の学校である以上、企業経験豊富な教員採用をより多くすべきと考える。

【鈴木委員】

- 教員採用の数値的目標はバランスのとれたものになっていると思います。あと女子学生の増加に伴い、女性教員の人数をもう少し増やしたほうがよろしいかと存じます。

平成25年度 年度計画意見表

○教育の質の向上及び改善のためのシステム

【東郷委員】

- 教育の質の向上に向けた種々の取組みは評価できるが、それらの取組みを総括し改善にしていける、いわゆるPDCAのシステムはどのように構築しているのでしょうか？ 例えば、委員会で議論しているとか、規則化しているとか？

【若原委員】

- ④の取組みでは、ポータルサイトに公開しても、教員が見ていなければ効果が上がらないので、実践例を教員に配布する、あるいは、配布した実践例に対するコメントを集めるなど、教員に実践例を自分ならどうするという視点を持たせる取組みが必要では？
- ⑦の、「検討する」は、中期計画の後半であることを念頭に置くと、弱含みの表現ではないか？ これまでの取組みを踏まえて、試行内容を明記できないでしょうか？
- また、(5)の④の内容では、「学生キャリア支援室を中心に、低学年から一貫したキャリア教育を実施する」とあるのと、整合性がとれていません。
- コース制が開始されたことを受けて、学生が自ら学ぶための、学習モデルマップなど、科目間の連携を明示するツールを作成し、提供されては如何か？

【丸田委員】

- インターンシップや教育等については、引き続き出来る限り協力させていただきます。

【萱沼委員】

- 教員の質の向上のためには、教員1人1人の研究意欲と資質の向上が大切であると考えます。学内外の研修や学校・企業間との連携交流など、そのどれをとっても大変素晴らしいシステムだと思います。また、学科の枠を超えた教員の相互授業参観などは、中学校でも実施がなかなか難しいのに素晴らしい取組みであると思います。それにより教員の授業力、教育の質の向上につながっていくことと思います。

【村松委員】

- これからの技術者は海外で活躍する環境が多くなることは疑う余地がない。そのためにも「英語力」は極めて重要なスキルとなるが、本校のTOEICスコアはようやく(平均)400点を越えたレベルと聞いている。(就職希望者においては350~380点と推定)大手企業の要求する新卒者へのレベルは600点以上であり、この格差は英語教育時間の少なさ、に起因しているのではと考える。特に、1~2学年から高学年になるに従い、英語の時間が減っているのは問題ではないか？ また、H23年度に高専機構が実施した全国高専卒業生アンケートでは「卒業生が教育内容の充実を図るべきと考えるもの」ですべての卒業年代において、英語力を第一位に上げており、第二位のプレゼン能力ともに他の内容を大きく引き離している。この事実を真摯に受け止め、一握りの学生の海外派遣もさることながら全体のレベルアップを図るべきと思う。
- 教員相互の授業参観の継続実施、とあるが実際のところどの程度行われているのか昨年度の実績を示してほしい。そこでの感想も聞かせてほしい。
- 教員自体へのキャリア教育(コミュニケーション能力向上、対人マナー、企業研究など)の実施を検討したらいかがでしょうか？

【鈴木委員】

- 教育の質の向上において、現状の取組みは非常に努力されていると思います。ただ、パソコンの使用、ネットワークの使用に関する学生のスキルの底上げが必要かと思えます。ワードやエクセルができるだけでなく、道具として試用する情報機器についての基礎知識をすこしレベルアップさせてはいかがでしょうか。簡単なネットワークの構築ならだれでもできるくらいにはなっていてほしいと思います。

平成25年度 年度計画意見表

○学生支援・生活支援等

【東郷委員】

- 学生支援・生活支援の計画は適切であると思います。
- 学生のメンタルヘルスに対する対応はどのようになっているのでしょうか？
- 高専という制度上、学生のキャリア形成における支援体制は重要であると思います。先輩がどのような職についており、そのキャリア形成の例を示すことができるとよいと思います。

【丸田委員】

- 企業に入社して活躍できる能力の一つにコミュニケーション力がある。キャリア教育では、コミュニケーション能力を高める取り組みをお願いしたい。

【工藤委員】

- 柔軟な技術者を育成するためにも、学生に技術的な興味だけでなく、様々なジャンルに挑戦する機会を与えて欲しい。

【萱沼委員】

- 中学生にとって寮生活は楽しみであると同時に不安でもあります。その不安や心配事の第一は、人間関係づくりだと思います。仲間づくりが苦手な異年齢での生活体験も乏しいのが今の中学生の実態です。高専に進学した生徒から話を聞くと、やはり寮生活が話題の中心になっています。特に先輩・後輩の縦のつながりや自治的な活動など楽しい活動が多いようで、学生たちにとっては連帯感や所属感、居心地のよい寮生活になっているようです。しかし、実際には進路選択をしようとする現中学3年生には、その良さがあまり伝わっていないのが残念です。

【村松委員】

- メンタルヘルス対策はますます重要なテーマであり、講習会などを多く設け、对学生だけでなく、教員自身のメンタルヘルスマネジメントも充実してほしい、特に、一方通行的講習でなく、ロールプレイを重視した内容を実施し、教員が頭で理解するのではなく、肌で体験することが肝要。(産業カウンセラーの立場で申し上げる)
教員相互がメンタルチェックできる環境づくりも大事である。
- 国際交流基金の運用開始は同窓会でも注目している。具体的内容について同窓会への説明を是非、願いたい。

【鈴木委員】

- 学生支援や生活支援は、よく子どもたちに配慮されたものになっていると思います。増加傾向にある女子学生についても今後、さらに女性独自の支援策をご考慮いただくことを願っています。

平成25年度 年度計画意見表

○教育環境の整備・活用

【東郷委員】

- 教育環境の整備・活用に関する計画は適切であると思います。

【村松委員】

- 校内の校舎の周辺、体育館、実習工場等周辺の雑草については「目を覆う」ほどの酷さであり、即刻の刈取り整備を願いたい。（6月末時点で）
来校者への不快感を与えるような環境は本校の評判を損ねることにつながると思う。
- 実習工場の「教育研究支援センター」化の体制は沼津高専の「ウリ」としてアピールできるよう、充実してほしい。

【鈴木委員】

- 実習設備の近代化や教育環境の整備は、時代にあったものを随時導入され、のびのびと先端技術を学ぶ環境が整えられていると思います。また、利用状況や安全にたいする配慮も十分になされていると思います。

○研究に関する事項

【東郷委員】

- 高専として、どのような研究（例えば、学術的な研究、実用化研究、世界あるいは国内に伍していく研究、地域に貢献する研究、など）を目指しているかなどは議論されているのでしょうか？
- 研究を通しての学生の教育についてはどのように考えているのでしょうか？

【村松委員】

- WEBを見ても、地域共同テクノセンターの充実ぶりはよく理解できる。が、共同研究費の収入がH22年度⇒23年度で大幅減である（▲47%）、24年度では増（△9%）今後の課題は具体的な何があげられるか？ 地元企業中心への営業力が必要なのではないか？ WEBだけのPRでは不足であり、足でPRする営業が必要と考える。

【鈴木委員】

- 「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」などは地域産業会の活性化も含め、高専と産業界との連携を深めるよい機会だと思います。また、所有する知的財産の資産化には、おおいに取り組むべきで、データベース化しweb上での公開は早急にやるべきことだと思います。

○社会との連携や国際交流に関する事項

【東郷委員】

- 社会との連携や国際交流に関する計画は適切であると思います。

【若原委員】

- 私費留学生受け入れを積極的に行うことは、国際化の観点では良いと思うが、私費留学生の支援体制、住居等の援助については、どのように考えているか？ 最近、私費留学生が大学に登校せず就労しているなど、問題も発生しているので、情報収集と対応策の検討が必要だと思います。
- 留学生が増えた場合、留学生を通じたグローバル教育も可能だと思います。検討しては如何でしょうか？

【丸田委員】

- 国際化に対応する観点から、海外語学研修の実施、海外インターンシップの促進や留学生の受け入れなどさまざまな取り組みを実施されている。
学生に刺激を与える意味合いからすると、まず従来から行っておられる留学生の受け入れを引き続き積極的に行って欲しい。
- 公開講座は、もっとPRをして欲しい。

【村松委員】

- OB人材の活用のための同窓会との連携を深める、とあるが具体的な同窓会への希望、人材の活用策はどのように考えているか？
国際経験、企業経営、営業技術 など学校教育では到底できない人材を豊富に有しているのが同窓会の強みであり、積極的な支援を依頼したらどうか？

【鈴木委員】

- 創立50周年を機に設立された国際交流基金は、海外インターンシップなどへ学生を派遣する機会を増やすのにおおいに役立つと思います。
永続的な基金にするために今後、教育後援会とともにアイデアを出し合って考える必要があると思います。

平成25年度 年度計画意見表

○管理運営に関する事項

【東郷委員】

- 校長のリーダーシップのもと、種々の事項が実施され、また今後の計画も立案されてると思います。

【村松委員】

- 一般管理費の効率化がH21年度から毎年3%と数値目標が設定されているが、具体的な金額レベルで5年間に對し、どの程度効率化が達成されたか、示すことが必要と考える。

【鈴木委員】

- 非常にお忙しい職務だと思いますが、職員の皆様の健康に十分配慮、学校運営を行っていただくことを切にお願いいたします。

○総合所感(本校に対する意見等)

【東郷委員】

- 校長の強いリーダーシップのもと、種々の取り組みが進められており、今後の計画も立案されている。特に、高専5年間の教育に対して、1年生の混合学級、2年生のミニ研究、3年生以降の専門基礎教育と学際領域の教育など、ややもすると、学生が5年間の間に中だるみしそうな状況を、目的意識をもって勉学に取り組めるような仕組みであると思います。また、平成26年度からの専攻科の1専攻3コース制の教育改変は、前述の高専5年間の教育と連結しており、その成果が目に見えます。
- 以上のような教育改革は必ずしも良い結果が出るとは限らない。よい結果に導くためにも検証して改善するPDCAの仕組みの下で推進してほしい。
- 高専も含め高等教育機関では、教育、研究、社会貢献の取り組みが求められており、そのことに対する種々の計画が立案されている。しかし、もっとも重要なのは、学生が5年間あるいは7年間の間にいかに成長し、卒業後、社会に貢献するかであり、教育、研究、社会貢献の取り組みも学生の教育に還元されることを第1に考えて進めていくことが必要かと思えます。

【丸田委員】

- 多岐にわたる年度計画が、学校長のリーダーシップのもと先生方の熱意で前向きに着実に前進していると感じます。今後とも着実な実践をお願いします。

【工藤委員】

- 沼津駅北口に市と県による国際会議も可能な施設ができるので、大いに利用して欲しい。
- 計画全体に理系的分野が多い様に感じる。懐が広い柔軟な技術者を育成するためにも、文化、芸術面の「心の教育」分野への計画もあるとさらに素晴らしい計画になると思う。

【萱沼委員】

- 教育に関する事項から研究に関する事項、そして社会・国際交流等、管理運営など多岐にわたる内容で業務運営計画が作成されていてとても関心いたしました。これこそが高専ならではの教育、高専の魅力を支えるものと思います。
- 中学生への進路指導では、成績等による進学指導ではなく、「自己の生き方」を考えるキャリア教育が重視されています。将来どんな職業に就きどんな生き方をするのか中学生にとってはなかなか難しい課題です。そして3年生になると目前に迫った進路選択(受験校選び)が始まります。迷った生徒は、とりあえず大学進学を考えて普通科を選択する傾向が強いです。でも、大学には普通科はありません。高専のように工業系の大学の受け皿がしっかりあることを考えると、中学校の学習の中で「ものづくり」の楽しさや大切さをもっと訴え、そのために「電気や機械、コンピュータ関係の勉強がもっとしたい」など、自己の興味や適正を捉えられよう授業やキャリア教育をしっかり行っていくことの大切さを強く感じました。

【村松委員】

- すべての項目において「検討する」のフレーズが多く、具体策が見えない感を受ける。極力、内容の見える化、納期、到達目標を数値化願いたい。
- 年1回の諮問会議の開催では途中経過、期中変更等が把握できない。上場企業では年4回の業績発表を実施しており、学校といえども半年に1回の期中報告、課題など討議する機会を設けて、多くの切り口からの検討、見直しなどを図るよう検討願いたい。

運営諮問会議 議事録

(平成 2 5 年 7 月 2 6 日 (金) 本校 3 F 大会議室)

平成25年度 沼津工業高等専門学校 運営諮問会議 議事録



日 時： 平成25年7月26日（金）14時30分～17時00分

場 所： 沼津工業高等専門学校管理棟3F大会議室

出席者： 【運営諮問会議委員】

- <第1号委員>… 大学等高等教育機関の関係者
若原 昭浩 国立大学法人豊橋技術科学大学学長補佐／高専連携室長
- <第2号委員>… 産業・経済界の関係者
三津濱元一 富士通株式会社 沼津工場長
丸田 忍 株式会社 明電舎 沼津事業所長
- <第3号委員>… 本校が所在する地域の関係者
工藤 達朗 沼津市教育委員会 教育長
萱沼 栄 沼津市校長会中学校幹事／沼津市立第一中学校長
- <第4号委員>… 本校の支援団体等の関係者
村松 正敏 沼津工業高等専門学校 同窓会常任理事
鈴木 政孝 沼津工業高等専門学校 教育後援会会長

※欠席者… 東郷敬一郎 静岡大学 副学長（評価担当）

【本校列席者】

柳下校長、蓮実副校長（教務主事）、大久保校長補佐（学生主事）、遠藤校長補佐（寮務主事）、遠山校長補佐（専攻科長）、押川校長補佐（学際教育担当）、上原事務部長、小林機械工学科長、佐藤電気電子工学科長、川上電子制御工学科長、長谷制御情報工学科長、芳野物質工学科長、西垣教養科長、江間図書館長、望月総合情報センター長、藤尾地域共同テクノセンター長、西田技術室長、小林学生生活支援室長、五条総務課長、入吉学生課長、露木総務課長補佐、沖津総務係員

議 題

I. 開会及び校長挨拶

議事に先立ち、校長から挨拶があった。

II. 議長選出

総務課長進行の下、「議長の選出については、運営諮問会議規則第5条第1項の規定に基づき、各委員の互選により選出される。」旨説明の後、立候補及び推薦者を募ったが、特に申し入れはなかったため、同課長から「事前をお願いしていた沼津市教育委員会 教育長 工藤達朗 委員を本会議の議長に推薦したい。」旨の提案があり、これを了承した。

III. 議長及び各委員等挨拶、並びに陪席者紹介

議長及び各委員から、自己紹介を兼ね挨拶があり、引き続き、総務課長から陪席する学校関係者の紹介があった。

IV. 沼津高専概要説明

柳下校長から、沼津高専の学校概要等について、PPT資料に基づき説明があった。

V. 審議事項

○ 平成24年度年度計画 自己点検評価の検証

議 長 それでは、審議事項に移りたいと思います。まず、審議事項1は、「平成24年度 年度計画自己点検評価の検証」についてです。資料2「平成24年度 年度計画自己点検評価表」をご覧ください。この表は、学校側で平成24年度年度計画に対する達成状況を記載した上で、自己点検評価をしたものです。一番右側の覧に自己評価点 S,A,B,C の評価が付されています。この表については、今年の3月末に各運営諮問会議委員に配布され、これに対する意見を記載した「評価シート」を提出していただきました。資料3「評価シート意見対応表」をご覧ください。これは、各委員からいただいた意見に対する学校側の意見及び考え方を取り纏め、各委員からの意見と併記したものです。今年度から、各委員からの意見の中で、提案や要望事項等については下線を引き、特にこの部分については、重点的ポイントとして捉えている旨学校側から伺っています。以上のことを踏まえ、各委員から、資料3に基づきご意見をいただきたいと思います。まずは、前年から引き続き委員になっている若原委員からご意見を伺いたと思います。時間の関係もあり、強調したい点等ポイントを絞ってお話いただければ幸いです。

若原委員 入試に関しては、沼津高専が単独で出来ることを、社会情勢や産業情勢等を踏まえて着実に努力を積み重ねていただく、ということ以外に答えはないと思います。自己点検評価表の書き方について、「やりました。」と記載されている項目について、具体的に何をどうやったのかが書かれていないものが散見されましたので、実施した事柄に対しては、具体的に記述願いたいと思い、指摘させていただきました。

管理運営の項目に関して、会議の効率的な運営のため、会議時間の制限を課しているというところは少し注意をしていただきたいと思います。会議は、その構成メンバーが十分に議論を尽くし、きちんと合意が出来た上で進めていくことが大事だと思います。あまりにも会議時間に囚われ、時間制限を厳密に言い始めると会議の内容自体が深まらない、形式だけの会議等になってしまう恐れがありますので、そこは是非ご留意いただきたいと思います。

もう1点、総合所感のところでは書かせていただきましたが、校長先生のリーダーシップの下で、メリハリのある計画を立てて進められているとは思いますが、あまりたくさんプログラムを用意することで逆に学生に負担になることもあります。最近の学生は、我々世代と違って、中学校から入ってくる段階で推薦で入ってくる学生も多く、メンタル面で弱い子供が多くなっていると思います。そういう子供に対して過度なプログラムを用意すると、追い込まれてしまうこともあるので、学生が自分自身の意思で取捨選択できるように教員がきちんと指導していただけると良いかと思います。トップクラスの学生は、自発的にどんどん進んでいくので、今まで通り進めていけば良いと思いますが、成績が中盤以下の学生達を高いところまで導くことも重要だと思います。そういう学生には、沢山のプログラムを全部課すとやる気の喪失や潰れてしまう可能性が高いので、1つ1つのプログラムをきっちり仕上げ、次に進む方法が良いのではないかと思います。

それと、これは毎回言わせていただいているのですが、「優秀な教員」をそろえるため、非常に活発に外部機関等から、優秀な先生方を採用されていると思います。しかし、学内の若い先生方も継続して力を伸ばしていけるようなシステムの構築も重要ですので学校として考えて頂きたい。

議長 有り難うございます。それでは、次に三津濱委員にご意見を伺いたいと思います。

三津濱委員 一応、評価シートの中で書かせていただいた中で、総合所感のところでは書いているのですが、高専について非常に期待しているのは、企業としては、優秀なエンジニアを輩出していただくということであり、沼津高専の現状の計

画の中では、質の高い学生を輩出していただいているので、その点は有り難いと思っておりますが、これは高専機構全体に関わる話かも知れませんが、全体として学生の量をもっと増やしていただかないと、企業としては、それなりのパワーにはならないというのが現状です。そういうことを、いろいろな場面で主張していく等の努力はしていきたいと思っておりますが、皆さんも大いにそういう考え方を持っていただけたらと思っております。

高専の役割として、高校よりも大学により近い教育機関として、地域連携や社会貢献ということを積極的に推進しており、それは非常に良いことだと思っておりますが、前の方の、研究に関する事項のところでは書かせていただいておりますが、いわゆる高校と同じ3年間プラス2年間で凝縮して、研究者の育成というところまで挙げてはいるのですが、やはり社会にインパクトのある研究をする時間としては短くて、その上にセンターがあったりあるいは大学のパスがあるということの中で、高専を卒業した方と高専の先生方との間での研究のシナジーとしては、ちょっと厳しいものがあるのかな、という気はしています。そういうものをどう繋げていくかということと、地域の研究の拠点として、先生方が、特に教授という立場を持って臨まれることと、1年2年3年の下位の学生の方とシナジーをどこで満たせるかという観点から見て、背中を見て立派な教授だということを見せていくということも重要だと思うのですが、研究の成果が理解できるかということ、今日もいろいろ見せていただきましたが、なかなか、学生の方が理解するということでは、少し距離があるのかなと感じています。その辺の切り分けというものを、どうしていくかということについて、もう少し分けて説明していただいた方が良いかなと思っております。

また、管理運営に関する事項で少しコメントさせていただきましたが、ファシリティ、それから日頃の学校運営をやっていくというようなプロフェッショナルリティと、一方の教育者及び研究者というものはちょっと質が違うような気がします。他の高校や中学に比べると圧倒的に難しいファシリティを抱えているところでもあると思っておりますので、そういったことについてもしっかりと研究していただいた方が良いと思っております。学校自体もどんどん進化して発展していくものであると思っておりますが、それは当然、事業継続性のベースの上に成り立っているもので、そういう観点からも、あえて経営していく者ということについて、もう少し研究していただいた方が良いかなというのが私のコメントでございます。

議長　ご意見有り難うございます。学校の方からの説明は、後程纏めてお願いしたいと思っております。次に、明電舎の丸田委員からご意見を伺いたいと思っております。

丸田委員 各項目についてコメントを書かせていただきましたが、私からは、国際化を踏まえた英語の関係、インターンシップの関係及びコミュニケーションの問題等について今日話をさせていただきたいと思います。

国際化と言っておりますが、全体の事業費率としては海外関係 3 割ぐらいでございましてまだまだこれから、というところでまさにそういった人材を活用していきたいと思っております。ちょっと指摘させていただいたのは、英語力の向上での、各自の到達目標ということでございまして、ややもすると全体で、ということになるのですが。全体では上がっても個々ではどうなんだ、というところも重要なポイントではないかと思っております。企業でも、TOEIC 等に力を入れていますが、これも目標を持ってやらせないとなかなか伸びていかないという現状がございまして、全体の目標設定、目標管理の中に個人目標も入れてトレースしているという状況で、徐々に上がってきています。是非、そういった取組を行って、地道なところからやっていただければ良いのではないかと考えています。

次に、インターンシップでございまして。これは、高専にとっても企業にとっても非常に有益だと思っておりますが、インターンシップは今、高専だけではなく、大学も非常に力を入れてきております。企業側からの立場で言わせていただきますと、非常にインターンシップを希望する機関が増えているという状況もございまして、いかに各企業あるいはインターンシップの研修先を確保するかということが非常に大事になってくると思っておりますので、この辺については、インターンシップ先の確保という観点での取り組みは、是非、先手を打ってやっていただきたいと思います。

最後に、コミュニケーション力の問題でございまして。これについては、昨年も書かせていただいたのですが、私も事業所長という立場でいろいろな採用面接等やらせていただいているんですが、コミュニケーションについては、昔は飛び抜けて上手い人もいなければそんなに下手な人もいなかったという時代でありましたが、今は、非常に上手い人間か下手な人間かという両極端で、その差が顕著になって来ていると思っております。特に、これは言うまでもありませんが、女性については非常にコミュニケーション能力が高く、コミュニケーション能力だけ比べると女性が上位を占めるような傾向があり、高専でもこのようなことが言えるのかなと思っております。コミュニケーション能力は、苦手な人をいかに意識させて教育し、どのように引き上げていくかということだと思いますので、そうなってくると英語と一緒にございまして、個々に焦点を当ててやっていかないとなかなかコミュニケーション能力は育っていかないと思っております。やはり、ただ聞いているだけでなく、社会に出るとコミュニケーション能力が求められる場面が非常に多く、face to face 等、最後は人対人ということが非常に

大事なものとなりますので、是非、コミュニケーション能力を磨くための活動として、ボランティア活動や社会奉仕活動、あるいはサークル活動等を積極的に推進していただきたいと思います。このところは、ややもすると全体でやっています、ということではなく、個人毎に見ると全くやってない人もいると思うので、そういう個々人に視点を置いた取り組みをやっていただけると、学生一人ひとりにとっても有意義なものになるのではないかと考えております。以上でございます。

議長 はい、有り難うございました。それでは、私からも評価シートを書いた1人として、コメントさせていただきます。今、それぞれ厳しいご意見もありましたが、全体的に自己評価表を見て感じたのは、自己評価が非常に厳しいのではないかと感じています。これだけの項目を1年間通して立派に実施しているので、もっとS評価があっても良いのではないかと思います。というのは、我々、教育委員会も自己評価しています。各学校も自己評価していますが、それらを見ても、もう少しですね、プラス思考でもいいのかなと思っています。

それともう一つの感想として、これだけの項目を、教職員120人ぐらいで実施していくこと、また、一つの方向に持っていくのは大変だろうなというのが率直な感想です。従いまして、みんなが一つの目標を明確にして、これに向かって実践していこうという確固たる意思統一がないと大変だろうなというのが実感でございます。そういう点では、校長先生のリーダーシップで実績をあげられているのは素晴らしいと思っています。

他の、萱沼委員、村松委員、鈴木委員から、何かこの自己点検評価表に関してコメントがあればご発言願います。

村松委員 村松です。今までいろいろお話を聞いていまして、その通りだと思ったことがいくつかあります。一つは、私は運営諮問会議委員に命じられてから、ずっと中期計画や23年度～25年度までの年度計画を全部ざっと読ませてもらいました。そうするとですね、約8割ぐらいは、毎年同じような内容となっている。また、非常に項目が多いことが目に付く。項目が多すぎるので、各項目に優先度を付けていかないと、全てをやるとなると大変なことだと思います。項目毎に優先度をA、B、Cという形で区分して、これは絶対やると言う項目を明確にする等、優先度をつけて実施することが重要だと思います。それから評価点S・A・Bとなっているものの基準はいったい何なんだということです。ただ、やります・やりましたがAということであるならば、私はそれはちょっと変だと思います。従って、ここまでやったらAだと、ここでやったらSだというところを、到達目標や時期、あるいはそれに対して人・物・金・時間・情報も投下す

るわけですから、インプットはこれだ、アウトプットはこれだ、ということをもう少しはっきりさせた方がより評価の基準が分かってくるのではないかと思います。つまり、あれもこれもみんな出来る訳ではありませんので、是非ともそういう点でこれからは優先度を付ける、あるいは評価の基準を決める、出来るだけ数値化するということをしていった方が良いのではないかと思います。これは長年企業に勤めた経験から、また、そのようにやってきた経験値からもそうした方が良くと思うので提案したいと思います。以上です。

議 長 有り難うございました。それでは、それぞれの委員の発言に対しまして、学校側から何かコメントすることがございましたらお願いしたいと思います。

校 長 三津濱委員からの高専の卒業生の数を増やして欲しいという要望については、実は昨年から伺っておりまして、高専機構へも書面で提出させていただいてるところでございます。実は政府の経済財政諮問会議で、麻生財務大臣が高専のことを評価した発言が活字になっていましたけれども、多分、Web でも見ることが出来ると思いますので、皆さんもご覧頂けたらと思います。その中で、戦後の教育制度で成功したのは高専の教育制度だけだと考えていると述べられており、総合的に平均的で優秀な卒業生を出すのも大事けれども、1つの専門分野を深く学び、専門教育を受けている高専の卒業生が産業界から強く求められている旨の発言がございました。他に産業界の方からは、全く同じ意見で、大学を増やすというのは財政的にも厳しい状況であるので、今、大学を潰して、高専を作って欲しいという声もかなり出ている。ということで、高専にとっては追い風になっているのですが、私は、産業界の様子を見てみると、今は就職率100%だから良いと言って安閑としているのではなく、今、手を打っておかないと10年後は危ないということを常に考えております。

もう一つ、村松委員の発言で、評価基準のことが出ましたが、一応評価基準はここで明確に示しております。A3サイズの資料（自己点検評価表）の一番最後のページの欄外に、自己評価点S・A・B・Cの基準についての説明書きが記載してあります。「S」は、当初の年度計画以上の取組を実行した。「A」は、年度計画どおり実行した。「B」は、年度計画達成には至らなかったが、具体的な取り組みを行った。「C」は、全く実行していない。という具体的な評価基準に沿って自己点検評価を行っております。また、企業と教育の場とでは、定量化という観点ではかなり異なる部分もあるのではないかと思います。それから、項目が多いので優先度を付けたらどうかのご指摘ですが、これらの事項は、常にルーチンとしてやらなければいけないことなのでご理解願いたいと思います。

蓮実副校長 村松委員からご指摘がありました年度計画について 8割が同じであり項目が多いので優先順位を付けたらとのご意見ですが、私たちは優先度を付けていると考えております。校長の強いリーダーシップの下で進めている学際教育の導入と専攻科の改編というのは、本校の最重要課題として認識しております。しかしながら、掲げている項目が多いため、それに答えなければ行けないという思いもあり答えている次第であり、私たちのマインドとしては、あくまでも校長が掲げている学際教育の導入・専攻科の改編を最重要課題という風に捉えております。校長の強いリーダーシップを持って、これに臨んでいるということで私たちは、それを全面的に支えていこうということで、沼津高専の今後の十年、この改革が無かったら沼津高専はないという危機感を持って行っており、この方向で重点的に取り組んでいるというところでございます。

校 長 補足させていただきますと、この年度計画がどうしてできているかと言いますと、高専機構本部が高専機構全体の年度計画を出しており、その項目に沿った形で本校の年度計画の各項目も作られているということでもあります。当然、各高専の年度計画は高専機構に提出することとなっております。ですので、重点項目については教職員の共通認識の下で取り組んでおります。

蓮実副校長 もう一点良いですか。若原委員から、会議時間の制約や効率化という点だけ考えると、会議自体が形骸化したり中身のない会議になってしまう恐れがあり、逆にうまくいかないとのご指摘でしたが、これについては、いくつかの小グループの会議があり、ここはちょっと残業を付けても、議論を積み重ねなければというところは時間をかけて行い、それを大きな会議に諮る時には、なるべく効率的にやろうという趣旨で取り組んでいるところです。

村松委員 それならば、その部分を二重丸にして我々にも分かるように示すべきではないかと思えます。沼津高専がこれについては最重点項目として絶対やるんだというところがこれでは見えない。ただの項目の羅列になっているので、これから是非やっていただきたいと思っております。

○ 平成25年度 年度計画について

議 長 どうも有り難うございました。それでは次の審議事項に移りたいと思えます。審議事項2：平成25年度年度計画につきましてご審議をお願いしたいと思います。資料4に「平成25年度年度計画」があります。これについては事前に各委員に配布し意見聴取を行い、各委員から寄せられた意見を纏めたものが資料5

の「年度計画意見表」でございます。従いまして、この資料 5 に基づいて審議を進めていきたいと思っております。時間も限られておりますので、1 項目について 2 名～3 名の委員からご意見をいただいて進めさせていただきたいと思っております。

1. 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

議長 それでは最初の項目である、入学者の確保から進めていきたいと思っております。本日所要で欠席されている静岡大学の東郷委員から事前にご意見を伺っておりますのでご披露させていただきます。「入学者の確保に向けた計画がきちんと立案されていると思っております。高等専門学校は通常の学校教育制度と異なった制度であり、ホームページや学校案内に相互の関係、編入学制度の説明等、このことを中学校卒業から就職後までのキャリアとして分かり易く説明してはどうでしょうか。沼津高専独自の取り組みである混合学級、2 年生のミニ研究、学際領域の教育を積極的に進学説明会で取り上げると良いと思っております。」という意見をいただいております。

入口のところは非常に重要であると考えています。いくら素晴らしい施設・設備・先生方が揃っていたとしても、ここが充実していないと、それらの機能が十分に発揮されない訳でございます。幸い沼津高専は、最近 2 年間は非常に増えていると伺っておりますので良い傾向だと思っております。それでは、当然、送り出す方の立場からのご意見を伺いたいと思っておりますので、中学校校長であります萱沼委員の方からご意見をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

萱沼委員 今日、いろいろと学内を見学させていただいて思ったのですが、実際の実験実習の場を見て、大勢で実験に取り組んでいる学生の姿や旋盤の機械やそれで作った物を見る等、ものづくり教育の現場を見て、こういうことを高専でやっているんだな、とつくづく感じました。その一方で、中学校に向けての広報という観点に目を向けて見ると、中学校に対する説明会は 2 回くらい中学校に担当者が来て学生向け及び保護者向けに高専のパンフレットを配布し説明する程度、また一日体験入学もやっていて努力されていることは分かりましたが、やはり、実際に高専に来てもらい高専という学校を直に知ってもらう方が効果があるように思います。実際に来てもらって、高専の良さを体験してもらうということが重要ではないかと感じています。

それから、もう一点。今、中学校の教科に技術家庭科があるのですが、数十年前までは週 3 時間あったのが、今は 1 時間なんですね。中学 3 年生になると、

家庭科と技術科の時間が0.5時間ずつなんです。ですので、ものづくりに対しての時間が少ないのが現実です。数十年前は、製図を引いたり、はんだごてを使ったりなんてしていたのですが、今の中学校のものづくりはというと、時間がないので、あらかじめ業者で作ったキットのようなものを組み立てる程度で、何も、ものづくりの面白さなんてないのです。理科の実験も授業時数が少ないので、高専のように丁寧にはやっていません。そういう子供たちが高専に入ってきた時に、そのギャップにカルチャーショックを覚え、ものづくりの本当の楽しさを知っていくのではないかと思います。そういう意味でも、好奇心旺盛で研究熱心な学生を集めるためにも、保護者を含めた広報活動も必要ですし、高専に足を運んでもらい直に高専も知ってもらう機会を増やすような対策が必要ではないかと思います。

議長 有り難うございます。私も送り出す方の一人でもありますので少し発言させていただきます。私も工業高校の教員として2校ほど勤めさせていただきましたが、その時に思ったことは、中学校の先生方は、ほとんどが普通高校出身なのです。工業高校出身の教員は少なく、技術家庭科の教員で少しいる程度です。

従いまして、子供たちが自分の進路を相談するときに、先生に相談しますが、先生は的確に応じられないのが現実なのです。ましてや、電子制御と電気電子の違いとか全く分からないので、ものづくりが好きなの？勉強できるから高専はどう？程度の進路指導になってしまっているのが実態なのです。14～15年前くらいになりますが、私が工業高校の教諭時代に「くくり募集」を行いました。工業系の勉強をしたい人は来て下さいと募集をし、半年間は特に分野は決めずに、全部の科を勉強して、2学期になる時に、自分で好きな科を選択するというもので、工業高校では全国的にやっていると思います。

従いまして、昨年から高専で取り入れている混合学級や工学基礎は、中学校にとって非常に有り難いと思っていますし、その部分をもっとPRする必要があります。これは中学校の先生にとっても安心出来るし、子供達にとっても安心出来る画期的なカリキュラムだと思っています。

若原委員 入学者の確保の一番最後に書かせてもらいましたが、例えば、専門学習適正チェックQ&A（仮称）などの子供達や中学校の先生、あるいはご父兄が、自分の子供はこれが向いているのではないかをチェックできるようなツールを用意してはいかがでしょうか。それと、父母への説明がどの程度行われているかも気になります。新入学生の獲得には、高専教育に対する両親の理解が大前提です。説明会等における父母の参加比率も踏まえて考える必要があります、必要があれば、父母用の説明会の開催等も計画されたらどうかと思います。

議 長 もう一つ、付け加えますと中学校の子供達は高専の先生が説明してもなかなか実感が沸かないと思います。もっと効果的な方法として、現役の高専生が自分の学生生活体験を話す等、中学生にとって年齢が近い身近な先輩から直接高専という学校のPRをした方が一番説得力があるのではないかと思います。是非、進学説明会等には高専の先生と一緒に高専学生も連れていき学生目線での説明をすれば、中学校の生徒も安心して応募することができるのではないかと思いますのでご検討願います。

蓮実副校長 高専の入試担当責任者の立場からお答えします。萱沼先生からのご指摘で、PR不足ということを感じました。学校側としては、中学校に出向きますと必ず、是非学校に来て下さいということは再三にわたって言うておりますし、そういう機会を設けております。8月10日一日体験入学、10月6日は中学生のための体験授業、11月2・3は高専祭、その他にも日本化学会と共催で行う学校をテーマにした体験実験等、学校に来校してもらい体験していただくという機会をなるべく多く設けているつもりです。その他にも私たち中学訪問をしたときに名刺を渡しておきまして、一人でもいいから、学校に興味があったらぜひ来てくださいということで、キャンパスツアーを常時開設しております。これは、1人の中学生、保護者についてもキャンパスツアーというのをやっております。ということで、やはり、萱沼委員のご指摘の通り、私たちは来ていただかないと、学校の良さや、おもしろさが分からないと思っていますので、そういうPR活動は、十分やっているつもりなのですが、先生のお耳に届いていないということは、やはりPR不足であるということ強く感じました。

もう一つ、若原委員からも、保護者を中心とした説明会の開催ということですが、今は、中学生と保護者の比率は、ほぼ半分半分で、むしろ保護者の方が多いです。その中には、中学校主催で保護者だけのキャンパスツアーがありまして、中学校保護者がバスをチャーターして纏まって学校を訪問するというものです。

校 長 これに関しては、ちょっと調べさせていただきまして、高専の中では全く学科を分けずに入学させて、1年又は2年の後に学科に分ける高専と、当初から学科を分けて入学させて教育だけは混合という高専の2種類がありまして、前者の高専はだいぶ苦戦しているようです。意外と本校に入ってくる学生の8割ぐらいは、どの学科に行きたいというのがはっきりしているのです。自分で決めたという意識が強く、1年から2年に転学科を認めているのですが、毎年5名程度から転学科の希望があり、そのうち転学科を認められるのは2、3名程度といったところで、本校にとっては今の方式が良いと感じております。

蓮実副校長 工業高校の教員仲間もあり、情報は入ってきますが、括り募集を実践している某工業高校では、化学系が定員割れを起こし困っているという実態も聞いておりますので、必ずしも括り募集が良いとは言えないと考えており、本校も今の方式に落ち着いているのではないかと思います。

(2) 教育課程の編成等

議 長 それでは、次の項目であります「教育課程の編成」に入らせていただきます。先程の「入口」における取組も大事ですが、学校教育の根本であります教育課程もとても大事なものですので、ここは若原委員、丸田委員及び三津浜委員にご意見を伺いたいと考えております。まず、最初に東郷委員からもコメントが寄せられておりますのでご紹介したいと思います。

東郷委員からは、「全般的に、特徴ある教育と実効ある教育を進める計画になっていると思います。1年次混合学級、2年次ミニ研究、3年次以降の専門基礎教育と学際教育の導入、また、複合・融合領域を意識した専攻科の改編は、興味深い取り組みであると思います。5年、さらにプラス2年の教育により、どのような学生を輩出するのかを全教職員で共有することが重要であると思います。」というご意見をいただいておりますが、最後の部分の全教職員が同じベクトルを向くということが重要だと思えます。それでは、若原委員からご意見いただきたいと思えます。よろしく申し上げます。

若原委員 この項目については、現在沼津高専の教育課程は再編途中であるので、途中であれこれ弄るのは適切でないと考えております。よって今回提案されている年度計画を粛々と実行していただくことが重要だと考えます。但し、実行するだけでなく、その後の追跡調査等を行い、調査結果に基づくPDCAサイクルを回していくことが必ず必要になりますので、それをぜひお願いしたいと思います。また、英語力の強化ということで、TOEICについていろいろ書かれていますが、TOEICというのはあくまで指標の一つであって、技術者に必要なのは、テストの成績ではなくて、現場で使えるかどうかだと思います。我々の大学も今年から海外実務訓練を開始し、私も学生選抜の面接を担当しましたが、TOEIC700点の学生が、英語で質疑応答ができないというケースもありましたし、TOEICは370点の学生ですが、学生自身が英会話の勉強をして良い評価ももらった学生もいます。ですので、TOEICの成績というのは、ただの指標であって、重要なのは技術者として必要とされるコミュニケーション能力のレベルをきちんと担保するということであり、そのための仕組みをセットで考えていただきたいと思えます。

議長 ありがとうございます。次に三津濱委員からご意見をいただきたいと思いますが、事前に三津濱委員のご意見を読ませていただきましたが、「学校教育は、技術だけでなく多様性を学ぶ場であり、文系の知識共有にも取り組んで欲しい。」ということが書かれておりましたが、この辺りに焦点を当てて話していただくと有り難いと思っています。

三津濱委員 実は、私は別の公立高校の評議員もやっているのですが、その高校も見させていたいただいているのですが、その高校では学校説明は全て生徒自身がやっています。私自身は東京の都立高校出身ですが、文系・理系は分けていませんでした。ですから、一つのやり方として、学科を分けずに一緒に勉強をするということは非常に良いことだと思います。要は、企業に入った時には得意な分野だけでなく不得意な分野も担う場面もあり、そういう従業員が全員一丸となって会社全体として結果を出すというところもあります。それから人間は、基本的に自分が好きなものではないとなかなか手を出さないものだと思います。他の人がなんか難しそうなお話等読んでいると影響されて読むようになるとか、いろんなことを含めて、周りからのシナジーを受けるということも重要なことではないかと思っています。高専を見ていて1つ危惧していることは、その時代に常に同じ方向ばかり向いているメンバーの中でやるというのはあまり良くないと思っています。先程、話に出ていましたが、下級生の勉強の面倒を上級生が見ているとか、違う学科のメンバーと一緒に授業を受ける等はとても良いことだと思います。要するに、みんなと同じ方向性を持って頑張ろうという姿勢で学ぶ場であるということも重要なことであるが、もう一つは、多様性を持つ場であるということも重要なことと考えています。実は、海外の人たちの付き合いが一番重要な部分だと私が思っているのは、相手のことを理解しようというのは、その人と同じになろうということではなくて、共感出来ないが海外で生活するためにはそれをやる必要があるということを理解した上で、一緒に合せられるということだと思います。だから、ただ単に好き嫌いを合わせるというのは多様性を排斥した一方方向に向いている話だと思います。その一番多感な高専生活の時期にしっかり多様性に関しての感性を身につけさせないと、言葉のコミュニケーション能力をいくら作ったとしても、やはり相手を本当の意味で理解するということにはならないと思います。前にも話しましたが、私の息子も高専生でしたが、高専生活を5年間経験した後会社に入り、いろんな人との付き合いということもなかなかうまく出来ているようで、それはこの高専の時期に、いろんな人と触れ合う機会を持ち、いろんな経験から学んだのではないかと思っています。会社の立場から技術力が欲しいという側面と、やはり人間として育つ一番多感な時期である高専の5年間の人間教育ということも是非お願いし

たいと思っています。

議長 ありがとうございます。私も沼津高専の教育理念にあります、人柄の良い技術者というところは非常に大切ではないかと思っています。人柄が良いというのは三津濱委員のお話にもありましたが、技術一辺倒ではなく、多様なコミュニケーション能力を持ち、豊富な文学等教養も持ち、総合的な面で優れているということが人柄の良い技術者に求められるものではないかと思っています。それでは次に、産業界の立場から丸田委員からご意見を伺いたいと思います。

丸田委員 私が書かせていただいたのは、今の話とまさに同じでございまして、変化に対応できる実践力のある人材を育てていただきたいということですが、実践力のある人材というのは技術力ということだと思っておりますが、変化に対応できる人材というのはまさに今、お話に出ました文系的な要素、パーソナルな部分のことだと思っています。高専時代には様々な経験をしていただきたいと思っています。やはりどんな人でもそうだと思うのですが、好奇心がある人というのは伸びると思うのですね。その、パーソナルな部分が決まるのは学生時代だと思います。今までの経験から培ったものについては、なかなか変えられないし、変えないことによる安心感というものもあると思うのですが、やはり、いかに好奇心を持って、新しいことにチャレンジしていくか、その中から新しい発見とかがあると良いなと思っています。そういう高専時代に、学校としても学生達に何でもチャレンジしなさいというような積極的な働き掛けをしてもらいたいと思います。企業でも、プロジェクト等組んで動かしているとやはり好奇心のある人間というのは伸びていきますし、それなりの注入力もあり、コミュニケーション能力にも優れています。是非、そのような人材の育成にも力を入れていただきたいと思っています。

議長 ありがとうございます。この事項について、学校側からなんかご意見等ございましたらお願いいたします。

校長 本を読むということに関しては、夏休みの課題で文部科学省から出されている推薦図書について読書感想文の作成を全員に課しております。また、4年生や5年生の新たなカリキュラムの中に文系の科目で哲学を入れておりますが、そちらでもかなり優れた学生がいますし、できるだけバランスのとれた優秀な学生の育成に努めているところです。それ以外に、沼津高専では、学生寮の生活を通じて全人教育を行っており、かなり成果が出ているのではないかと思います。寮務主事の遠藤先生からその辺りのお話をいただけたらと思います。

遠藤寮務主事

寮務主事の遠藤です。先程から違いの分かる人間作り、相手のことを理解する人間作りが重要だというお話が出てきましたが、それは私も大変重要だと感じています。寮務関係に長年携わってきまして、学校のスクールタイムだけではなく、夜もずっと一緒に過ごすということは、相手のことを理解しないとなかなかうまくいかないと思います。昨今は、それがなかなか出来ない学生もおりますが、多くの学生が寮生活を通じていろんなことを学んでいるということで、寮生活では非常に良い体験をしていると、私は感じております。

蓮実副校長 いくつかありまして、東郷委員や工藤委員からもご指摘がありました。どうやって全教職員の力を合わせていくかということが大事だというご指摘はごもっともだと思います。このことについては、校長が進めている学際科目、専攻科の改編に関して教職員の力を合わせるということという主旨で、校長が一人一人の教員を呼び、専攻科の担当授業科目について説明を行い、教員との相互理解を深める等の努力をされております。

もう一つ、若原委員から、追跡調査は必須であり、PDCAサイクルを回してその方向性を構築することが重要とのご指摘でしたが、遠山専攻科長を中心として、工学基礎をやっておりますが、これに関しアンケート調査を行い、その問題点を把握し、改善に繋げるということを実践しております。基本路線を変えることなく、PDCAサイクルを回すということが実際に動き始めております。また、これは同窓会や教育後援会のお陰なんです。50周年を機に、国際交流基金が出来ました。校長は、高専生活の5年間に必ず1回は海外に出ることを推奨し、学校はそれを支援するというので、丸田委員からご指摘がありましたチャレンジ精神という観点からも、本校は特に海外に行つての交流が出来る体制整備を進めております。

村松委員 意見表の方にも書かせていただきましたが、平成23年度に高専機構が、全国の高専卒業生にアンケート調査をしたものが公表されていますが、これを先生方はご覧になっているのでしょうか。これは、卒業後31年以上経った卒業生から卒業後5年以内の卒業生まで、全ての卒業生を5段階に分け、今の高専教育に必要なものは何かという問いに対して、全ての年代で、1位が英語力、2位がプレゼンテーション能力、3位がコミュニケーション能力と答えています。私も、この2年間キャリア教育を担当してみて、これは本当だと思いました。これは、これからの高専教育で何が必要かということをお話しているそのものだと思います。しかも、本科の教育で何が一番満足していないかという問いに対して、満足していないものの中でダントツに多いのは人文社会系一般科目、それから

英語や国語です。この結果を見ても、技術者と言えどもこれからは、人文社会系科目や国語等きちんと勉強する必要があるということを卒業生が指摘しているのです。このアンケート調査結果を見ていない先生は、高専機構のHPに掲載されているので、是非見て下さい。それを見て、これからどうやっていくかを考えていただきたいと思います。

(3) 優れた教員の確保

議長　それでは、次の項目であります「優れた教員の確保」に入らせていただきます。この事項については、鈴木委員と三津濱委員にご意見を伺いたいと思います。この項目では全部で7項目の記述がありますが、その中で女子学生や女性教員の登用について触れていますので、鈴木委員から、まずご意見を頂ければと思っています。

鈴木委員　鈴木でございます。実は私の娘がこちらの高専にお世話になっております。女子学生もこの数年増えており、それに伴い女性教員の人数も少し増やした方が良いと思っています。また、この委員会を見ても女性の方がいないので、この中にも一人や二人くらいの方が本当は良いのではないかと感じています。そういう意味でも、女性教員をもう少し増やしたら、という意見を書かせてもらいました。

議長　よろしいですか。この事項については、東郷委員の方からもコメントをいただいております。「優れた教員の確保は高等教育機関として極めて重要な事項であると思います。そのためには採用と人材育成が重要であり、両観点からの計画になっていると思う。」「教員の評価システムや採用・昇格基準は定められているのでしょうか。」というご意見を伺っていますので、後程、学校側からお話いただけたらと思います。それでは、産業界の立場から三津濱委員にご意見を伺いたいと思います。

三津濱委員　さっき別のところでもお話いたしました。高専という教育機関として成り立たせるという意味で、先程の管理面のお話と、やはり教員として進めていくという二つの面をどのように考えていくかという話をしましたが、もう一つ感じたのは、社会に出ていく人材に対して、社会を経験した人が指導するということは重要であり、もちろん現行の教員の方々でも社会経験がある方はいますが、やはり、もう少し社会人をうまく利用するということについての見解があっても良いのかなと思いました。

ただ、今の管理のためのメンバーや教員としてのメンバーという中にそのまま当てはめても収まりつかない部分もあるので、ワンショットで我々が参画させていただく等やはり制度自体も見直す必要があると思います。そういうフレキシビリティを持たせながら、使えるものは使った方が、楽なんじゃないかという意味で、ぜひ、我々のような企業人も使ってもらえば良いのではないかと考えます。私の前任者は、沼津高専で非常勤講師で勤務しておりますが、あの方は、日本の中でもコンパイラーという情報処理の非常に重要な部分については、あれだけいろんなことを手がけた経験のある方はいないと思いますので、一般論だけではなく少し経験論も含めれば、素晴らしい先生になる素質のある方ですし、そういう方は自分の回りにも多少はいますので、そのあたりも膨らませていただくような言及が欲しかったと思います。

議長 ありがとうございます。それでは学校の方から何かございますでしょうか。

校長 今のご意見については、全て高専機構が進めろと言っていることとございまして、女子教員については数値目標を掲げ、採用する教員の5人に1人は女子教員にするという数値目標が出ております。また、女子教員を採用すると運営交付金にプラスされるようなメリットもあります。また、三津濱委員が言われたのは「共同教育」を進めなさいということで、これは企業のOBや企業人にもっと教育に参加していただくというもので、これに関しては、この共同教育に関するプランを描き、申請すると補助金をもらえるものもあります。今年度は、オムロン社からこの4月に来てもらった先生に、共同教育のプランを計画してもらい申請したら、さっそく機構がお金を付けてくれました。ということでございますが、先日、慶応大学の先生が時々静岡新聞に時評を書いており、要するに学校の先生は社会の様子をあまり知らないので、企業の様子を紹介してもらうために、企業で活躍している人を呼んで、講演してもらうことは非常に重要であるが、ただ、面白かったとか良い話をしてくれた等の評価だけで終わっているケースが多く、それでは学生には十分浸透していないということでもあります。だから、共同教育を進めるときは、大学の先生がきちんとプランニングを進めていく必要があるということが静岡新聞に書かれていまして、まさしくそのとおりであると感じています。

また、教員の評価につきましては、一応システムを作り、数値化して体系化を試みていますが、なかなか難しいところがあるのが実情です。

先生には、半年ないし1年間等の一定期間、企業に勉強に行っていただくことも必要ではないかと思っています。今年は、1名の教員を1年間オムロン社に派遣していますが、こういうことを定期的に行って行く必要があると考えて

います。これは、高専機構本部とオムロン社が連携した取組の一環で行われているものですが、本校の近くにも立派な企業がたくさんあるので、先生方の住まいは変えないで、給料は高専から支給するような方式の交流が出来たら良いと思っておりますし、機構本部も推奨しているものであります。

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

議長　それでは、次の項目であります「教育の質の向上および改善のためのシステム」に移りたいと思います。この項目につきましては、若原委員と村松委員からご意見を伺いたいと思います。では、まず若原委員からよろしく願いいたします。

若原委員　この項目で非常に気になった表記がありました。確か平成 25 年度は第 2 期中期計画の最終年度だと思うのですが、この時点で、各年度計画の記載事項の書き方で、最後が「検討する。」という表現となっているのはおかしいので、これは少し注意をしていただきたい。検討するのではなく、実施する等に改める必要があると思います。

また、教員の質の向上という意味では、ポータルサイトを作って授業の工夫実践例を公開するということが挙がっていますが、一番重要なのは、公開することではなく、それを活用するということだと思います。そういう意味では、ポータルサイトを開設し、良い交流の取り組みが公開されていても、教員が見ていなければ絵に描いた餅になってしまいます。実践例を教員に読ませるために配布するとか、あるいは配布した実践例に対して自分だったらこの例をこういう風に変えましょうというように、自分の場合に当てはめた提案を出してもらう等の取り組みを入れないと駄目だと思います。大学でも FD 活動に対して本当に熱心な人は積極的に参加して、取り組みを参考にして改善するのですが、まあいいやって人は、FD の講習会にただ居るだけの人もいます。やはりこの取組を実のあるものにするためには、情報共有したものについて、それを自分のことと捉える仕組みを入れていただきたいと思います。その他に、コース制になっておりますので、学生自らが、何を学ぶのか、というのを、自分なりのビジョンを持って、学んでいける学習モデルマップみたいなものを明示すると良いのではないかと思います。以上です。

議長　ありがとうございます。それでは、村松委員お願いいたします。

村松委員　一番目は先ほど申し上げたので割愛させていただきますが、基本的に、確かに

TOEIC というのは一つの境界、手段でしかないと思うのですが、残念ながら、いろいろな企業の求めている TOEIC のスコアというのは、大体どこでも最近では 600 点です。上を見れば、例えば富士通さんは 650 点が新入社員の条件だったりするのです。本当に凄いところは、韓国のサムスンが 900 点、ヒュンダイは 850 点、LG 電子もそうです。どこもこういったものを一つの基準として設けているのです。にもかかわらず、沼津高専はどうかというと、この 2 年間、模擬面接をやって一人一人の学生に来てもらって、聞いたところ大体 350 点前後が非常に多いです。なぜ、そんなに低いのだと考えてみたところ。1 年生からやってきた英語の時間がだんだん高学年になるに従って減っている。授業の時間が急激に減り、5 年生になるとほとんどない状態なのです。このことは、きちんと考えて行く必要があると思います。

また、年度計画の中に、教員相互の授業参観の継続実施とあります。現実の問題として、先生方が本当にお互いの授業の参観をしているのでしょうか。実施しているのならば、どのくらい実施したかということ客観的に数字で示すことが出来ますか。そのための評価がありますか。たぶん書いてはあるけれども、ほとんどの先生方は忙しいから他の先生がやってる授業を見て暇なんかないのではないかという気がします。もしそうでなかったら申し訳ありませんが、実際に、他の先生の授業を参観するというを本当に実施しているのか伺いたいと思います。

三番目に、これも大変失礼ですが、先生方自身にもっとキャリア教育やコミュニケーション能力を身につけていただきたい、あるいは対人マナーとか、あるいは企業研究等、先生方は大変忙しいことはよく分かっているのですが、先生自ら学生を指導する、教育する立場ですから、先生方自らが、コミュニケーション能力を十分に発揮できるようにしていただきたい。というのは自分の考えをきちんと伝えるだけではなくて、学生の悩み、学生に言っていることをきちんと理解すること、言葉じゃなくて肌で理解してきちんと育み育てるということをですね、ロールプレイを交えながらやっていく等、これからの学生との日々の過ごし方が、非常に重要になってきますので、是非それをやったらどうでしょうか、ということをご提案したいと思います。以上です。

議長 いくつかのご質問と提案がございましたけれども、学校側からご意見がありましたらお願いいたします。

蓮実副校長 この部分は教務主事の責任の範疇ですので、私から回答させていただきます。まず、若原委員から、ポータルサイトに公開しているだけでは駄目で、きちんと紙ベースで伝える等しなければいけないとのご指摘ですが、確かに、ポータ

ルサイトだけでは駄目だろうとは思いますが、私たちは、シラバスの中に、自分の授業の問題点と改善策を必ず記述するということを課しておりまして、他の教員の授業の良さというものを、そういうところを取り入れてシラバスに反映させるということで、必ず、授業の改善を行うことを義務付けております。

もう一つ、村松委員からは、年度計画に授業参観を継続実施すると記述されているが本当にやっているのかということに関してですが、これは間違いなく期間を定めて実施しておりまして、レポートを求めております。また、そのレポートを教務主事が回収しておりまして、ほとんど全員が、授業を見て、レポート提出してくれておりますので、それは、年度計画通り実施しておりますので、そのとおりに回答させていただきます。その中で、極めて良い例は、ポータルサイトに挙げて、ぜひ参考にしてほしいということで、授業改善に役立つような仕組みにしているところです。

もう一つ、教員自身が、コミュニケーション能力を、対人マナーを、企業研究を行いなさいということです。これに関しても、村松委員ご指摘の通り、校長からも先ほど話がありましたように、教員を企業に派遣するとかいうことで、コミュニケーション能力等を養っているということなのですが、これは教員が産学連携に取り組む、ということを通して企業との技術者ないし経営者とコミュニケーションがうまく取れないと良い研究につながりません。ということで、教員に求めているスキルを磨いていくというのは、やはり外からの刺激からではないかなと思っています。三津濱委員等からご指摘いただきましたように、企業の力を借りて、教員がスキルアップすることではないか、それには共同研究などが、大いに役立つのではないかと考えておりまして、これは藤尾地域共同テクノセンター長を中心に、極力多くの教員が地域連携共同研究に携わるように働きかけております。以上です。

議長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

大久保学生主事 今年度キャリア教育を担当している立場からご説明いたします。今年度のキャリア教育は、低学年からの一貫したキャリア教育を施行するために、「キャリア支援室のサポーターとして、本校 OB である、企業退職技術者に支援をいただきながら進めていく」ということを、会議では決定しておりますので、年度計画に記述している「検討している。」というのは記述ミスです。誠に申し訳ありませんでした。

また、もう一つ、若原委員から年度計画意見表の中でご指摘いただいております、(4)の⑦の記述と(5)の④の「学生キャリア支援室を中心に、低学年から一貫したキャリア教育を実施する。」との整合性がとれていないとの部分で

すが、これについては、キャリア支援室が立ち上がったのは良かったのですが、前年度までいろいろと混乱がありまして、司令塔がおりませんでした。今年度、私が担当することになりまして一応私が司令塔のつもりでやっておりますが、昨年度までは、企業技術者活用プログラム経費があったのですが、今年度からその経費もなくなり予算もないことから、今年度から新たにキャリア教育を根本から見直して、プログラムを作り直している段階です。まず、就職担当教員とかインターンシップ担当教員が別々におりまして、それぞれが機能しておりましたので、これを全部取り込む形で今後キャリア支援室はどれぐらいやれるかということを議論していかななくてはならないという段階です。このような状況であり、今の段階ではこういう書き方しか出来なかったということで、このところはそのようにご理解いただきたいと思います。

議長 ありがとうございます。学校側、または委員の方から何かありますでしょうか。

上原事務部長 先程の「検討する。」という部分ですが、これは平成 25 年度の年度計画表の資料 4 の (5) の④に、大久保主事が申し上げたことがそのまま、反映させていただいております。ご確認くださいと思います。

議長 こちらは、「検討」が取れていますね。だからその後直ったということですね。

若原委員 (4) の⑦の記述が「…活用について検討する。」と記述されていたので、その箇所が気になったので指摘させていただいたところです。

(5) 学生支援・生活支援等

議長 それでは、次の項目であります「学生支援・生活支援等」に入らせていただきます。この事項については、少し視点を変えて、学生に焦点を当ててご議論いただきたいと思います。この項目につきましては、丸田委員と萱沼委員にご意見を伺いたいと思います。この項目では全部で 5 項目ありますが、まず、丸田委員からお願いしたいと思います。

丸田委員 ここは、コミュニケーション力を書かせていただいたのですが、先程も同様の内容で意見させていただいたので、先程と同じということで省略させていただければと思います。

議 長 はい、わかりました。それでは、萱沼委員にお願いいたします。

萱沼委員 先程、工藤委員から、現役の学生が中学校に来て説明すると効果があると言っておりましたが、実は、前の学校でも、ちょうど公立の入試の時に、高校 2 年生の卒業生が、中学校に来て自分の高校の説明会を、中学 2 年生の生徒を対象に実施していました。高専は入試時期が違うこともあり、高専生が自分の高専の説明会をやることはないのですが、実は、高専生が中学校に遊びに来て、高専生活を話す機会があったのですが、その時に一番話題となったのが寮生活のことなのです。寮生活については、親元から離れて生活することになり、不安や期待が大きいようです。特に不安の部分では、やはり、人間関係で不安になるようです。二人部屋になったときに良いお友達ができるか等、ましてや、今の中学生の課題となっているコミュニケーション能力の不足から、人間関係が希薄になっている昨今、いきなり寮生活に馴染めるか等不安な面が多いような気がします。しかし、本日、実際に寮を見学させていただき、上級生が下級生に勉強を教えるシステムが出来ていたりして、子供達がその中で良い関係を作っているということを知って安心しました。ただ、それが中学生にどう伝わっているのかなと言う点で、たぶん伝わってはいるんですが、そうたくさん生徒には伝わっていないので、高専に行きたいという興味のある生徒に対しては、寮を見学させてもらったり、寮生活のことをちょっと重点的に話をしてもらおうと、勉強のことも心配なんですけど、やはり、寮生活に対する不安も払拭でき、安心できる材料になるのではないかと思います。

議 長 有り難うございました。今のご意見について学校側から何かコメントはありますか。

遠藤寮務主事 萱沼委員から、寮生活において、二人部屋等でコミュニケーションがうまく取れなくて非常に不安だと思っている学生も多くいるのでそれを解消する一つの手段として、できる限り実際に生活している学生が説明した方が効果があるとのことご指摘をいただきました。実は、寮の説明に関しまして、できる限り寮生自身が対応するようになっています。一番大きな行事が、毎年 8 月に実施されております一日体験入学で、学寮説明会ということで、保護者と、実際に本校を希望している中学生が、寮を見学するのですが、その中で、寮生活に関していろんな説明や質問は、全て寮生が対応しているのです。教員は、ほとんどタッチしません。それから、10 月に実施されます体験授業でも、寮の見学があるのですが、そのエスコートは全部寮生が行います。ですから、本日の寮の視察もちょっと時間帯が合わなくて、ちょうど授業時間帯だったので寮監が対応しましたが、もしお時間が 3 時過ぎでしたら、たぶん寮長等の寮生が、皆様の

寮見学に対応したと思います。本校では、基本的に、寮に関することは、教員の助言と指導の下で行っておりますけれども、寮生が自主的に行うということで、中学校への説明もそのようにしております。

村松委員 少し、学生のことで気になることが1点あります。沼津高専は、退学している学生が大体年平均30名ぐらいいるのでしょうか。この数は、大体全学生の3%ぐらい当たるわけですが、私は、たまたま今、若者サポートステーションで仕事をしておりますが、同じ年代の高等学校の生徒の退学する率の全国平均は1.7%です。中退する高校生が一番多いのは大阪で、ここでも2.2%です。静岡県は1.4%です。それに比べると約倍の学生が中退してしまっているというのが現状であり、これは非常に大変なことだと思っているのですが、このことについて学校はどう思っているのかお聞きしたいと思います。

校 長 その数が多いのか、又は少ないのかという捉え方の問題だと思いますが、全国高専の中では沼津高専は決して多い方ではございません。中位でございます。もっと多い高専はたくさんあります。もちろん本校としても、留年及び退学に対する対策はいろいろ手を打っています。本件については教務主事の方からも説明させていただきます。

蓮実副校長 校長の説明のとおり、高専というのは高校と違って高等教育機関でありまして、進級が非常に厳格に評価されているということで、ここは高校と決定的に違うところではないかと思っています。高校はかなり進級については上げるといふ姿勢で臨んでいると思いますが、高専の場合は単位が取得できないと留年ということになるということで、単位の評価が非常に厳しいということが、高専の中の留年・退学率が高いことにつながっているのではないかと思います。これは毎年、高専機構から、全国の高専を調査していますが、本校は、確かに多いのですが、そんなに飛び抜けて高いという数字ではないということです。特に、数学・物理がネックになっておりまして、特に1年生から躓いてしまう学生が多いです。それに関しては、例えば、数学などは、元高校の教頭先生だった方等を先生として招聘し、放課後に補習を行っております。これも二通りの方法で実践しております。一方は、強制的に、学生を来させて行うもの、もう一方は補修を受けたい学生は来なさいというもの、両面でそういう場を設けております。実は、本日もやっていると思います。その他にも、物理の実験室を開いて、いつでも相談に応じる等の体制は整えておりますし、専攻科の先輩たちが、後輩に教えるという場もあります。メンタルヘルスで、困難を感じている学生達には、先程の学生生活支援室に行くと勉強についてもサポートする

体制が整備されています。ということで、本校では、数学・物理の教科に対する学習支援、先輩による学習支援及びメンタルヘルスの視点からの学習支援体制等々かなりのメニューを用意して、それぞれの個人に合わせて選択できるような学習支援の場を設けておりまして、これは高校以上だと私は思っております。というように、努力をしているのですが、現実はこの数字だということです。

議長 これは、なかなか難しい問題であると思います。各学校毎に要因も違うだろうし、普通高校も工業高校にも退学者はいると思います。従いまして、沼津高専が取り組んでいる混合クラスとか工学基礎の勉強は非常に大事な取組であると改めて思っているところです。

三津濱委員 高専を高校と見るのか、大学と見るのかという両面の観点があると思うのですが、大学は留年する学生が結構いると思うのですが、留年をネガティブに考えるのか、ポジティブに考えるのかということでは、やはり、メンタルヘルスのことを考えると、無理やり進級させることが良いのか、ということについては私はずっと疑問を感じています。留年については、留年したことで成長差が出る学生もいるので、そういう留年についてはポジティブな扱いにしていく、というのが今の時代にはあっているのではないかと私は思います。是非、その一点はよろしくお願いします。

(6) 教育環境の整備・活用

議長 それでは、次の項目であります「教育環境の整備・活用」に入らせていただきます。この事項については、村松委員と鈴木委員にご意見を伺いたしたいと思います。

村松委員 この意見表を記入した6月末の段階で非常に気になったことで、6月に来校した時に、目を覆うほどの雑草が生えていまして、同窓会の常任委員のメンバーも、口を揃えてひどい状況だと言っていました。民間企業ではあり得ないことであると思ったのであえて書かせていただきましたが、今日来てどうかと思い、まずそこを見たのですが、きれいに刈ってあったので、対応していることを確認させてもらいました。でも、もう結構生えています。これは、経費の問題もさることながら、これはやはり自発的に学生達がやる、学生自らが自分の学校の草刈りを行うこと等の意識が無ければ環境というのは良くなれないと思います。私は、今千葉県の高校を回っているのですが、公立高校は素晴らしく綺麗にし

ています。誰がやっているのかというと、生徒及び用務員、場合によっては先生も混じって行っています。以上です。

鈴木委員 学校の設備等は、見させていただいて素晴らしいと思います。また、安全教育も徹底されているということで、実験中の事故等々は聞こえてはこないのも、その辺りもきちんと対応し、うまく機能しているのかなと思っています。

大久保学生主事 草刈りを学生にやらせたらどうかのご意見ですが、学生に電動の草刈り機を使わせたり、鎌を使わせたりすることで事故の可能性も出てきます。例えば1クラス40名の学生を2名の教員で見えています。実際、各クラスが年に1回は必ず、校内や学校回りを清掃するクリーン活動というものをやっています。それで、ちゃんと草取りや草集めもやっています。学校周辺のゴミ拾いも全部やっています。しかし草刈り自体をやらせることは少しためらいがあります。高学年には、草刈りをやらせたこともありますが、そういう状況であるということをもまず承知していただきたいと思います。草刈りについては、経費の問題もあり、年度によっては業者委託で対応するときもあり、数年前までは、教職員全員で草刈りをやったこともありますし、そういう時は学生にも支援をしてもらって、草刈りをやったこともあります。最近は、業者委託で対応する年が多くなり、まあそういうことであり、我々は学生には草刈りはやらせないでおいたということです。但し、事務の方では学生系の職員等が、その都度、残業して草刈りしたり、朝早く出て来て草刈りをやってくれて、クリーン活動を利用してその草を学生に集めさせるということは、今年も実際にやっておりますので、ご理解いただきたいと思います。

(7) 研究に関する事項

議長 それでは、次の項目であります「研究に関する事項」に入らせていただきます。この事項については、若原委員と三津濱委員にご意見を伺いたいと思います。まず、大学教員の視点から、若原委員にお願いしたいと思います。

若原委員 コメントとしては、特に明記していませんが、今日説明ありましたように、共同研究を非常に活発に実施されており、とても良いと思いましたが、地元地域企業とコンソーシアムを形成していることは非常に良いことなので、どんどん進めていただきたいと思います。しいて言うなら、先程も校長先生から説明がありましたが、科研費の実績を伸ばしていただきたいと思います。科研費は、成功を求められない研究に対する予算と捉えるならば、次の種を育成するため

の予算と考える必要があると思います。校長先生も十分に認識されておりますが、できればそこを強化していただきたい。

三津濱委員 平成24年度の総括でお話したことと、重なる部分はあるのですが、やはり高専教育の5年プラス2年という構成の中で、教員が高専の教育ということと、研究ということと、どう紐づけていくかということについて、ストレートに言うのと、もっとアピールする方向をうまく入れていただきたいと思っています。

校長 若原委員の意見に対しては、科研費に対しては、申請件数を増やすために、講師を招き講演会を開いておりますが、今年は、長岡技術科学大学の斉藤副学長に特別にお願いして来ていただく予定です。科研費の内訳を見ますと、本校は一般科目の数学や物理の先生が頑張ってくれています。私が思うに、いきなり共同研究に行くのではなく、若い教員は、まず科研費を取って、それから共同研究に行くのが良いと考えており、そして、その次のステップが大きな経産省等のプロジェクトだと思っています。ですから、まず科研費を取ることは、是非、経験してもらいたいと思っています。

三津濱委員が先程から何回も言ってくれているのですが、私の経験から言いますと、5年生で1年間卒業研究というのがあります。それで、私の学生に、学生には理解できない少し難しいテーマを与えてやったことがありました。学生は分からないながらも一生懸命やるのです、そして、最後に、論文を纏める頃になって、自分たちの研究はこんな良いことやってきたのだと気づく、それが本科の5年生です。また、専攻科の学生は更にすばらしく、マスターレベルの力は十分あると思っています。

若原委員 科研費で一般科目の先生が頑張っているのには非常に驚きました。共同研究だと出来上がりが目に見えるものを研究対象としますが、学生の教育上の視点で考えると、科研費では出来上がりが見えないものを作るので、創造性の涵養には非常に役立つと思います。専門の先生方にもそういう利点もあるのだということ伝えていただき、申請を推奨いただきたい。

(8) 社会との連携や国際交流に関する事項

議長 それでは、次の項目であります「社会との連携や国際交流に関する事項」に入らせていただきます。この事項については、丸田委員と村松委員にご意見を伺いたいと思います。まず、丸田委員からお願いいたします。

丸田委員 国際化の視点については、先程の24年度年度計画意見対応表で申し上げましたが、語学研修とか海外インターンシップ等についてはやはりどうしても一部の人に限定されてしまいます。目指す人が多くても、派遣枠の問題等もありますし仕方ないと思います。そういった意味では、やはり国際化の刺激を与えるという意味でも、留学生の受け入れを積極的に行っていただきたい。実際に留学生を受け入れている実績はあるかと思いますが、引き続き積極的に行っていただきたいと思います。それから、一般社会人向けの公開講座でございますが、いろいろご苦労されていることは聞いております。ニーズを拾うためにアンケート調査をされたり、ご苦労されているとは思いますが、公開講座があること自体知らないということもありますのでPR活動も含めて考えていただければと思います。

村松委員 OBの一人として申し上げている訳ですが、5期生までは、大体社会をリタイヤしてこの地区に随分いるわけですが、どういうOBがいるかということを調べてみると、授業では教えることの出来ない国際経験や企業の経営、私も経営の一端を担っていたわけですが、あるいは営業技術等のノウハウを持った人がいっぱいいます。そのためにエンジニアーズ・ネットというのは立ち上げてはいるのですが、残念ながら、エンジニアーズ・ネットに登録している人は、まだ10名前後しかいないのです。これだけいっぱいいるにもかかわらず、やはり仕組みが良くないと思いますし、まだまだ、PR不足です。でも、どうするかというとやはりHPなんです。同窓会のHPに行くには、沼津高専公式HPから2回～3回入って、もう虫眼鏡で見なくてはいけないような細かい字で書かれた同窓会のバナーをクリックしないとヒットしない。こういう状態ではなかなか卒業生が見ない。明日も実は理事会があり、この件について検討する訳ですが、同窓会としても、自分たちが持つノウハウをどんどん学校に提供できるような組織を作ってやろうじゃないかということも一生懸命考えています。これには学校側の協力がないとなかなかうまくいきません。そういう意味では、ぜひ、具体的に、エンジニアーズ・ネットを拡充してもっとOBの持つノウハウを学生に役立てる仕組みを、同窓会もまた、運営するメンバーと是非一緒にやっていきたいと思っております。

蓮実副校長 順序が逆になりましたが、私も、明日の理事会に出席しますので、私が窓口になりたいと思っております。また、丸田委員から、海外インターンシップに参加できる学生は限られるけれども留学生は波及効果大きいということですが、まさにそうだと思いますので私費留学生を含めて沼津高専は手を挙げておりまして、ぜひ、留学生に来ていただくようにこれからも働きかけていこうと思っ

ています。

若原委員 私費留学生を増やす場合は、リスクのことも考えて置く必要があります。大学では、私費留学生が登校拒否でいなくなってしまうケースや知らない間に働いている等の案件があり問題となっています。特に、中国の留学生は学校を隠れ蓑として就労しているケースがあちこちの大学で発覚し、注意勧告が法務省から来ています。

大久保学生主事 これは機構本部が差配しますので、一高専が、とやかくいろいろ言えるようなレベルではなくて、留学生については私費も含めて差配しますので、本当に心配することはないと考えております。まあ、来た後にいろいろ変化する可能性があるかもしれませんが、それは、いまのところ一高専で心配しても仕方ないことだと思います。

(9) 管理運営に関する事項

議 長 それでは、次の項目であります「管理運営に関する事項」に入らせていただきます。この事項については、村松委員と鈴木委員にご意見を伺いたいと思います。まず、高専 OB の視点から村松委員からお願いいたします。

村松委員 平成 21 年度から中期計画の中に、一般管理費 3%削減って書いてあるんですが、ずっとこれ 5 年間続けてくるとかなりの金額になると思うのですが、具体的に、数字的に何処かに出ているのでしょうか。

校 長 運営費交付金 1%、管理費 3%を毎年ずっと、引かれていますので学校の運営も大変です。

鈴木委員 先生方、この年度計画を見ても大変お忙しいのは良く分かりますが、是非、健康にだけは気をつけていただきたいと思います。それだけです。

校 長 暖かいお言葉有り難うございます。他高専の校長で名古屋大学からきた先生は、高専の先生は大学の先生の 3 倍仕事しているとはっきり言っていました。また、本校で実施している「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」の元コーディネータも同様に高専の先生は大学の先生の 3 倍仕事していると言っていました。高専というところは大学と違って研究だけやっていたら良いと言うところではなく、学生の教育がメインの仕事でそれプラス研究、そして学

校運営と大変多忙を極めております。

議長 ありがとうございます。これで、各項目ごとの審議事項は終了しましたが、各委員毎に総合所感も書かれておりますので、本日の委員会全体を踏まえて1人ずつコメントをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

若原委員 総合所感としては特に記述していませんが、個別の項目の中でいろいろ書かせていただきました。高専の先生方は忙しいこともありますし、村松委員からもご指摘ありましたが、優先順位を付けるなど、あまり特定の人に集中しないように配慮いただきたいということと、組織全体の力を向上させるためには、若手の先生方の育成も大切だと思います。先程、教員を企業に派遣されているとお聞きし少し安心しました。そういった取組を今後も継続していただいて、特に大学を出て学位を取得したばかりの若い先生をしっかり、次の力となるように育てていただきたいと思っています。

三津濱委員 基本的に高専については、企業として非常に期待しているというスタートの時と同じ意見です。そういう意味で、今回、いろいろな資料を見させていただきましたが、やはり高専に対してのステークホルダーというか高専の活動で利益を得る等々いろいろあると思うのですが、それに対しての高専が担っているものというのは非常に多いと思います。やはりそれをそれぞれのステークホルダーに向けたメッセージでうまくアピールしていただきたいと思うし、しかもその側面というのは、高専は一見、生徒を育てることがメインだと見えますが、それ以外にも非常に強いミッションを持っているものがあるということと、それぞれの切り口でもう少し分かりやすくしていただくと、もっとまわりのステークホルダーの輪というものが広がっていくと思います。やっていることについての問題はないのですが、それはやはり説明責任というのが最近特にうるさくなっているんで、その部分については、ぜひ、我々もコメントさせていただきますし、協力できるところは協力していきます。今後とも頑張ってくださいと思います。

丸田委員 本日は、この会議に参加出来まして、より高専に対する理解が深まったと考えております。このような機会を設けていただき有り難うございました。高専は、中学生を受け入れるということで、高等学校の先生的な要素と高等教育機関としての大学の先生的な要素を合わせ持っていて、それ故、非常に忙しいということですが、我々企業としましても、非常に高専に対しては期待もしておりますし、非常に評価をしているところでございます。

先程、ご指摘もありましたが、やはり、学校の PR をうまくやっていただいて高専の良さが伝わるようにしていただければと思っております。今後、私ども採用活動等で、直接高専から来ていただいている生徒さんもおりますし、大学等進学して入って来ている生徒さんも多いので、今後とも引き続きよろしく願いしたいと思っております。

萱沼委員 本日はありがとうございました。前半の校内視察は、本当に自分が思っているのと違って、実際に、子供たちが挨拶してくれたり、いろいろなものづくりの現場を見させていただいて本当に自分自身、また高専の理解が深まりました。まあ、そういう経験を通じて感じたことを子供達に伝えていこうと思いました。中でもやはり、最先端の機器が導入されていて、共同研究等でも昨年の本校の PTA 会長が某会社の社長で良く話をするのですが、社長が自ら高専の社会人対象事業の受講生として高専にお世話になり、医療関係で自社の持つ網の技術を活かした医療機器の開発に取り組んでいることを聞いたり、また、その息子も高専生だったりして、そのようなことでも、やはり中学生ができるだけ身近に高専を感じる事が出来るよう我々も伝えて行かなくてはいけないと思いました。また、沼津市が取り組んでいるキャリア教育という観点からも、中学生の段階から高校への進路を考える時にも、ものづくりの良さや自分に合っているものは何かとか、自分はどのような職業についてどのような将来を描き、どのようなキャリアステップを踏んでいくのか等を考えられるようなになれば良いなとつくづく思いました。また、いろんな面でお世話になるかと思いますがよろしく願いいたします。

村松委員 キャリア教育というものを介して、学生以外に先生方ともこの 2 年間、いろんな意味でお付き合いさせていただきました。今一番私が心配することは、私は産業カウンセラーの資格を持っていて、いろんな意味でいろんな方々と関わりを持っています。引きこもりの親御さんのカウンセリングであるとか、不登校に陥っている高校の生徒の保護者の方ともカウンセリングしています。その中で、やはり先生方のメンタルヘルスケアが大事ではないかと思っています。特に非常に忙しくて毎晩遅くまで仕事しているということを知ると、身体もさることながら精神的にも相当疲れている先生がたくさんいるのではないかと、いうことを、大変私は危惧しています。そういう意味では、メンタルヘルスに関して、もっとお互いにお互いをチェックし合うということが重要であると思えます。なかなか自分では疲れたと言にくいですから、お互いにお互いをチェックしあって心の健康をずっと維持していただくということがとても大事なことでないかと思っております。

鈴木委員 いろいろありがとうございました。沼津高専は、校長先生のリーダーシップの下、先生方や職員の皆様方がみんなでサポートして運営しているような学校で、本当に良い学校だと思っています。我々保護者としても、安心して子供を通わせることができますので、本当に有り難いといつも思っています。また、何度も言いますが、先程、村松委員からもご指摘がありましたが、教職員の皆様方におかれましては、くれぐれも健康には気を付けていただき、メンタルヘルスの観点からもお互いにチェックして行っていただき、より良い学校づくりを今後とも進めていただきたいと思います。

議長 ありがとうございます。私の方からは宣伝になりますが、沼津駅北口に「キラメッセ」も新たにオープンしました。その横にも国際会議が出来るような県の施設も出来ますので、おおいに沼津高専も利用していただくと有り難いと思っています。また、総合所感の所に書かせていただきましたが、やはり幅広い技術者や柔軟な技術者を育成するためには、あまり特化しすぎても良くないと思っています。教育課程の中には入れにくいかも知れませんが、是非、文化・芸術等の分野も取り入れ、心のゆとりの部分も大事にしていきたいと思えます。部活動や様々な校外活動もありますが、そういう中でうまくバランス良く子供達を育成していただくと、社会に出てからも人間関係作り等うまく出来るような人間が育成されるような気がします。高専は工学系で、「技術バカ」と言われない様に、是非、その辺のバランスもよく考えて学生の育成にご尽力いただけると有り難いと思っています。参考資料 2 に沼津高専関連の新聞記事が載せてありますが、一つの学校でこれだけ新聞の記事になるくらい、いろんな取組をしているというのは大変なことだと思いますし、これは学校としての大きな成果ではないかと思っております。なかなか大学でもこれだけの記事が載るようなことはないかと思っており、それに対しても敬意を表する次第です。

つたない司会ではございましたが、これで運営諮問会議を締めたいと思えます。本日は本当にありがとうございました。

以上

運 営 諮 問 会 議 報 告 書

－ 平成 24 年度年度計画自己点検評価の検証／平成 25 年度年度計画 －
(平成 25 年 12 月 発行)

沼津工業高等専門学校 総務課

〒 410 - 8501 沼津市大岡3600

TEL 055-926-5856

FAX 055-926-5700

URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>